CLS

取扱説明書

マーク

この取扱説明書では、以下のマークを使用しています。

⚠ **警告**

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康を脅かすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

ℹ これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。
(▷ ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
画面設定	この表記は、マルチファンクションディスプレイ / COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
	このマークは、デジタル版取扱説明書に説明があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project http://www.freetype.org の著作権により保護されています。 All rights reserved.

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様ご自身と同乗の方々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は、COMAND Online 内のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称は、オプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは、主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書では、100 km/h 以上の速度での性能に関するデータや車両の状態が記載されています。ただし、公道を走行するときは、常にその場所で適用される法定速度にしたがってください。

メルセデス・ベンツ社は、車両を最先端にするために、絶えず改良を行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 補足版

車両を売却される場合は、必ず次の所有者にすべての書類をご譲渡ください。

Daimler 株式会社の技術文献部門は、お客様が安全で快適な運転をされることを切に望んでおります。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

2185841471

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

数字

英字

概要

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています。

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 装備付属の補足版

印刷版取扱説明書は、車両の主要な機能の概要を、簡単にご理解いただくために作成されました。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。 印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。 呼び出しはインターネットに接続せずに行なわれます。

以下の項目に詳しい情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 21 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- 基本メニューからのさまざまなアクセス方法

デジタル版取扱説明書の基本メニューを用いたアクセスには、以下の 3 つの方法があります。

- 画像検索
- キーワード検索
- 目次

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。 そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します。

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して ⊛ 確定します。

▶ "取扱説明書"選択カードを選択し確定します ⊛ 。

2 つの可能性があります。

1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。 デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。 以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。 必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分 かかります。 この時間は、車両が停止していて、そのときに COMAND システムの他の機能が使用されていない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。 インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のような COMAND システムの他の機能を使用していると増加することがあります。

インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意を払います。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ COMAND システムのスイッチオン

▶ インストール用 CD を CD / DVD ドライブに挿入します。

▶ COMAND ディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **インストールが完了したとき：** COMAND コントローラーを使用して、インストール CD が排出されることを確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール作業中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。 後でインストールを続行することができます。 続行するには、インストール用 CD を CD / DVD ドライブに再び挿入し、上記のインストール指示にしたがって実行するだけです。

操作

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ COMAND システムのコントロールノブ ON を押します。

COMAND システムがオンになります。 以前選択したメニューが警告メッセージの後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、確定します 。

▶ "取扱説明書"選択カードを選択し確定します 。

デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

画像検索

画像検索により、車両を"システム上で"調べることができます。 車両のエクステリアあるいはインテリアの図のいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまなトピックにアクセスすることができます。 インテリア項目にアクセスするには、項目さくいんページの"インテリア"を選択してください。

① トピックバー

② 選択した項目さくいん

③ 作動している車両構成部品

▶ COMAND コントローラーを回して ⟲◎⟳ 、個別の車両構成部品を選択します。
個別の車両構成部品が赤いライトで強調されます。表示につき 1 個の構成部品のみが強調されます。

▶ 今選択されている項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

項目を選択した後、以下のいずれかが続いて表示されます。

- デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
- さらに詳細なさくいんが記載されたリストが開きます。COMAND コントローラーを使用して選択できます。
- 画像検索の階層に下がります。 ここでは COMAND コントローラーをまわし、赤色 ③ で強調されている個別の車両構成部品を選択して、より特定して検索することができます。

キーワード検索

キーワード検索では、文字入力によりキーワード検索を行なうことができます。 文字入力の詳しい説明は、"COMAND システム" のさくいん "ナビ - 文字入力（文字バー）"をご覧ください。

① 使用できるキーワードの選択リスト

② 文字バー

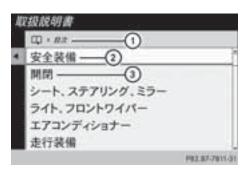
③ ⮌ リターンスイッチ

▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーを回す ⟲◎⟳ 、またはスライドさせて ↑◎↓←◎→ 、文字を選択します。

▶ 文字を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
選択リスト ① がフィルタにかけられます。

▶ COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
代わりに、 OK を押して選択リスト ① を呼び出すことができます。

目次

目次には、トピックが印刷版取扱説明書と同じ順序で記載されています。 項目を選択した後に、小項目を選択することができます。

① トピックバー

② 目次の中で今選択されている項目

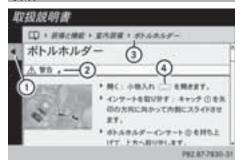
③ 目次の中で今選択されていない項目

▶ COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ↑◎↓←◎→、希望する項目を選択します。

▶ 項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

さらに該当する小項目を含む選択リストが開きます。

▶ 該当する小項目を同じように選択します。

操作

① リターンスイッチ

② 非表示の警告

③ トピックバー

④ 続きの章へのリンク

▶ **ページ内を移動する：** COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、文字を上または下にスクロールします。

▶ **ページから移動する：** COMAND コントローラーを左にスライドして ←◎、リターンスイッチ ① を選択します。

前のページが開きます。

または

▶ COMAND コントローラーを上方へスライドさせて ↑◎ 、トピックバー ② を選択します。

▶ COMAND コントローラーを回す ⟲◎⟳ 、またはスライドさせて ↑◎↓←◎→ 、希望する項目または小項目を選択します。

選択したトピックバーがすべての小項目を含めて開きます。

▶ **リンク ④ を選択する：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的にリンクにジャンプします。 リンクを選択しているときは、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

希望のページが開きます。

▶ **警告、注意、環境関連の注意および故障情報を開く：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的に警告、環境情報や故障情報のドロップダウン表示にジャンプします。 注意を選択した場合は、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

警告、注意、環境関連の注意や故障情報は、同じページで開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書を終了する：** ⮌ スイッチを押します。

デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

▶ [↩] スイッチを再度押します。

または

▶ COMAND コントローラーを下にスライドして ↓◎、中止 フィールドを選択し、押して ⊛ 確定します。
COMAND システム機能の概要が開きます。

▶ **機能スイッチを使用してデジタル版取扱説明書から COMAND システムに機能を切り替える：** COMAND システムの [RADIO]、[TEL]、[DISC] または [NAVI] スイッチを押します。
希望するメニューが開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し ⊕ 、押して確定します ⊛ 。
前回表示されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、"デジタル版取扱説明書"機能は、走行中はオフになります。

環境保護

全体的な注意事項

環境保護に関する注意

Daimler 株式会社は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の操作状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。 以下のことにご留意ください。

操作状況

- 消費燃料が増えますので、短距離の走行は避けてください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 車両の燃費に注意してください。
- 必要でない場合は、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。 整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動する際は、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞している時は、エンジンを停止してください。

製品情報

メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。 メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。 したがって、これらのメルセデス・ベンツ車への使用については、メルセデス・ベンツは責任は負いかねます。 独自に、または公的に承認されている部品であっても同様です。 承認されていない部品を使用すると、車両の操作安全性に影響を与えることがあります。

したがって、メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツ純正部品、承認された交換部品やアクセサリーはメルセデス・ベンツサービスセンターで入手できます。 ここでは、許可された技術的改造についての助言を受けたり、部品を専門的に装着することができます。

取扱説明書

全体的な注意事項

最初に車をご使用になる前に、本取扱説明書をお読みになり、車両についての理解を深めてください。

お客様ご自身の安全とより長い期間車両をご使用いただくために、本説明書の指示と警告に関する項目に従ってください。 それらに従わないと、車両を損傷したり、けがをするおそれがあります。

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別冊のさくいんをご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

使用に関する安全

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、意図したようにお客様や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ **警告**

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。そして、安全システムは、意図したようにお客様や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、インタフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらにお客様自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

オンボードダイアグノシスインターフェース

⚠ **警告**

装備を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 これは走行中の車両の操作安全性に影響を及ぼすおそれがあります。事故の危険性があります。

いかなる装備品も診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

診断機の接続部に接続されている装備品やケーブルをゆるめると、ペダル付近の空間の邪魔になることがあります。 急ブレーキ時や急加速時に、装備品やケーブ

▷▷

ルがブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。 ペダルの動作に影響をあたえるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転者の足元に装備品やケーブルを装着しないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように意図されています。

診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。 これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの使用

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。 (▷ 131 ページ).

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがトランスミッションポジション D または R のときは、駆動輪に動力が伝達されています。 その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要なあらゆる作業の実施に適した、必要とされる専門的な知識や工具、資格を有しています。このことは特に安全性に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全性に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツはメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

正しく使用するために

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ
- 道路交通法
- 自動車に関係する法律と安全基準

車両に記憶されているデータ

故障データ

車両操作で重要となる部品には、故障データメモリーが標準で装備されています。 特定の走行状況(エアバックの作動または ESP®の介入など)で車両の部品がどのように反応したかを記録するデータ保存機器もあります。

これらのデータは以下のことにのみ使用されます。

- 故障や不具合の改良の支援
- メルセデス・ベンツが車両の機能の改良および開発を行なう場合の支援

データを使用して、車両の行動をたどることはできません。

お客様の車両がメルセデス・ベンツ指定サービス工場で整備を受けた場合は、この技術情報が故障メモリーから読み出されます。 この作業は、特別な診断コンピューターを使用して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された整備士により行なわれます。

故障が解決されると、その情報はメモリーから消去され、その他のメモリーデータは、絶えず上書きされます。

データを保存する他の機器

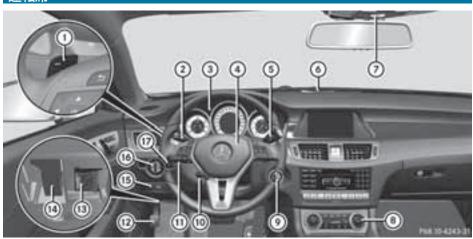
装備状況に応じて、お客様の車両にはコミュニケーションやエンターテインメントシステム(ナビゲーション機器や電話システムなど)が装備されています。 お客様は、これらの機器を操作する上で必要となるデータの保存や編集を行なうことができます。

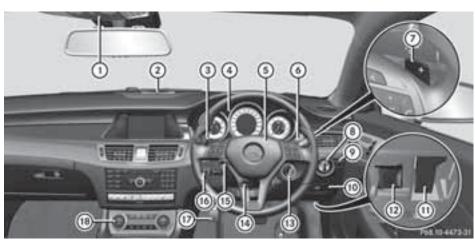
操作(データの消去など)についての詳細情報については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

全体的な注意事項

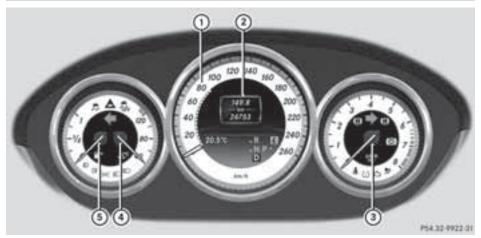
⚠ 警告

ライターを車内に放置しないでください。 気温が高くなると、車内の温度が急激に上昇することがあります。 これによりライターが爆発し、車両に引火するおそれがあります。

運転席

	機能	ページ
①	ステアリングのギア変速パドル	
②	クルーズコントロールレバー	137
③	メーターパネル	36
④	ホーン	
⑤	DIRECT SELECT レバー	131
⑥	パークトロニック警告表示	151
⑦	ルーフオペレーティングユニット	42
⑧	エアコンディショナーシステム	120
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	127 128

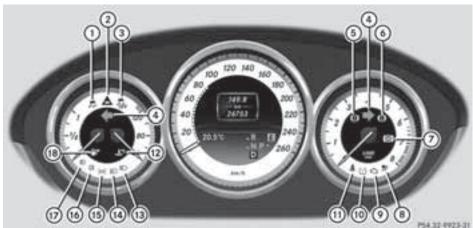
	機能	ページ
⑩	ステアリングの調整 ステアリングヒーター	105 105
⑪	コンビネーションスイッチ	110
⑫	パーキングブレーキ	
⑬	オンボードダイアグノシスインターフェース	29
⑭	ボンネットを開く	220
⑮	パーキングブレーキ解除ハンドル	
⑯	ランプスイッチ	108
⑰	ナイトビューアシストプラス	154

	機能	ページ
①	ルーフオペレーティングユニット	42
②	パークトロニック警告表示	151
③	コンビネーションスイッチ	110
④	メーターパネル	36
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECT レバー	131
⑦	ステアリングのギア変速パドル	
⑧	ランプスイッチ	108
⑨	ナイトビューアシストプラス	154
⑩	パーキングブレーキ解除ハンドル	
⑪	ボンネットを開く	220
⑫	オンボードダイアグノシスインターフェース	29
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	127 128
⑭	手動調整式ステアリングの調整	
⑮	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	
⑯	クルーズコントロールレバー	137
⑰	パーキングブレーキ	
⑱	エアコンディショナーシステム	120

メーターパネル

ディスプレイ

	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	
②	マルチファンクションディスプレイ	

	機能	ページ
③	タコメーター	
④	冷却水温度計	
⑤	燃料計	

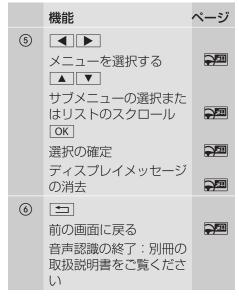
ℹ マルチファンクションディスプレイでメーターパネル照明を調整します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

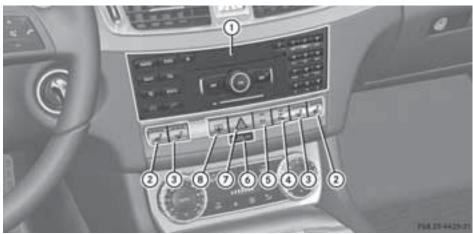
警告灯と表示灯

	機能	ページ
①	ESP®表示灯	185
	SPORT ESP スポーツモード表示灯（AMG 車）	186
②	車間距離警告灯	178
③	ESP® オフ表示灯	185
④	方向指示灯	
⑤	ブレーキ警告灯（赤色）	178
⑥	特定の仕様車のみ： ブレーキ警告灯（黄色）	178
⑦	ABS 警告灯	182
⑧	SRS 警告灯	188
⑨	エンジン警告灯	
⑩	この仕様車では機能しません。	

	機能	ページ
⑪	シートベルト警告灯	178
⑫	冷却水警告灯	189
⑬	ハイビーム表示灯	
⑭	ヘッドライト表示灯	
⑮	サイドランプ表示灯	
⑯	リアフォグランプ表示灯	
⑰	この仕様車では機能しません。	
⑱	燃料残量警告灯	

マルチファンクションステアリング

	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	音声認識機能に切り替える：別冊の取扱説明書をご覧ください	
④	通話の拒否、または終了 電話帳 / 発信履歴を終了する 発信する、または受ける リダイアルメモリーに切り替える + − 音量の調整 ミュート	

	機能	ページ
⑤	◀ ▶ メニューを選択する ▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール OK 選択の確定 ディスプレイメッセージの消去	
⑥	前の画面に戻る 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

センターコンソール、上部

	機能	ページ
①	COMAND システム	
②	シートヒーター	104
③	シートベンチレーター	
④	パークトロニック	151
⑤	ECO ECO スタート / ストップ機能	

	機能	ページ
⑥	助手席エアバッグオフ表示灯	62
⑦	非常点滅灯	110
⑧	リアウインドウの電動ブラインド	

センターコンソール、下部

	機能	ページ
⑨	小物入れ 灰皿 ライター 電源ソケット カップホルダー	
⑩	カップホルダー	
⑪	SPORT COMF サスペンション制御を設定する	

	機能	ページ
⑫	車高調整	
⑬	小物入れ	
⑭	S E M 走行モード選択	
⑮	COMAND コントローラー	

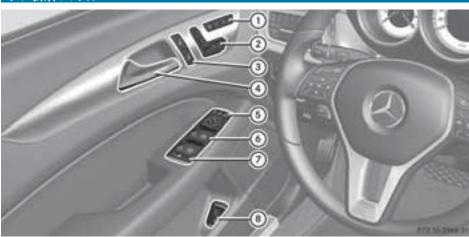
センターコンソール、下部（AMG 車）

	機能	ページ
⑨	カップホルダー	
⑩	パーキングポジション P にする	136
⑪	セレクターレバー	131
⑫	灰皿 ライター 電源ソケット	
⑬	COMAND コントローラー	
⑭	小物入れ	
⑮	AMG サスペンション制御を呼び出す/保存する	
⑯	サスペンション制御を設定する	
⑰	ESP®表示灯	76
⑱	走行モード選択ダイヤル	

オーバーヘッド操作パネル

	機能	ページ
①	リアルームライト点灯 / 消灯の切り替え	
②	ルームライト自動コントロールオン/オフの切り替え	
③	右側読書灯点灯/消灯の切り替え	
④	けん引防止機能の解除	81
⑤	ルームミラー	

	機能	ページ
⑥	スライディングルーフの開閉	98
⑦	室内センサーの解除	82
⑧	左側読書灯点灯/消灯の切り替え	
⑨	フロントルームライト点灯 / 消灯の切り替え	

ドア操作パネル

	機能	ページ
①	M 1 2 3 シート、ドアミラー、ステアリング位置の設定登録	
②	パワーシートの調整	
③	車両の施錠 / 解錠	
④	ドアレバー	
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	
⑥	サイドウインドウの開閉	
⑦	後席のサイドウインドウのオーバーライド機能の設定 / 解除	
⑧	トランクリッド開閉	94

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

乗員安全装備

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、運転者や同乗者を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなったり誤作動し、傷害を負うおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

不適切な作業を行なうと、衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。 決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置） は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です。(▷ 47 ページ) これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。 ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下の点に注意してください。

- シートやヘッドレストは正しく調整してください。 (▷ 102 ページ)
- シートベルトを正しく着用してください。 (▷ 55 ページ)
- 作動する場合は、エアバッグは正しく展開することができます (▷ 48 ページ)。
- ステアリングを正しく調整してください。 (▷ 105 ページ)
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。 そのため、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。 車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。 エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。1 つ目は、第一に、シートベルトは車両の乗員をエアバッグに関連した最適な位置に留める補助をします。第二に、正面衝突などの際に、シートベルトは衝撃の方向に車両の乗員が投げ出されることを防ぎます。

SRS（乗員保護補助装置）

概要

SRS は、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- クラッシュセンサー付きエアバッグコントロールユニット
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

⚠ **警告**

SRS に異常が発生すると、各システムが偶発的に作動したり、減速度が大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは、異常が発生しています。

- エンジンスイッチをオンにしても SRS 警告灯 が点灯しないとき
- エンジンを始動して数秒間経過しても SRS 警告灯 が消灯しないとき
- エンジンをかけた状態で SRS 警告灯 が再び点灯するとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

SRS の機能は、エンジンスイッチをオンにしたときやエンジンの作動中に定期的に診断されています。そのため、異常が発生するとただちに検出することができます。

メーターパネルの SRS 警告灯 は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 方向
- 衝撃の強さ

これらのデータを判断して、エアバッグコントロールユニットは衝突の初期段階でシートベルトテンショナーを事前に作動させます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御するデュアルステージ式フロントエアバッグが装備されています。エアバッグコントロールユニットは、衝突の際に車両の減速度または加速度を判断します。第 1 段階では、フロントエアバッグは乗員の負傷を防ぐのに最適なガス圧で膨らみます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準値に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。 このプロセスは事前に実行されます。 作動決定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。 変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。 反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。 縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分高いレベルに達した場合などです。

ℹ フロントのシートベルトテンショナーは、フロントシートのシートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合のみ作動させることができます。

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。 各エアバッグシステムは、それぞれ個別に作動します。

エアバッグシステムの作動条件は、事故の大きさ（特に車両の減速度または加速度）および以下のような事故の形態に基づいて決まります。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転や転覆

エアバッグ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。 ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約 150 cm 未満あるいは 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。 運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整してください。 運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。 特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。
- サイドバッグやウインドウバッグが膨らむウインドウ周辺には頭部を寄りか

けないでください。特に、お子様にはご注意ください。

- 助手席シートエアバッグの機能が解除されている場合を除いて、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席に設置しないでください。 チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席エアバッグが解除されます。 助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯し続けます。

  助手席にチャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合や、後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。 やむを得ず助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席シートをもっとも後ろの位置に調整してください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席・助手席フロントエアバッグの格納部にもたれかかったりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。 それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。 ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- ドアに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- ドアにカップホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動する必要があるため、エアバッグの作動によりけがをする危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグを確実に機能させるため、以下のエアバッグ格納部には、バッジ、ステッカーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリング下部のニーバッグ格納部
- 助手席エアバッグの格納部
- フロントシートバックレストの外側
- リアシートバックレストの左右端部
- フロントピラーとリアピラーの間のルーフフレームトリム

⚠ 警告

エアバッグが作動すると、少量の白煙が発生することがあります。 この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防止するため、安全を確認のうえただちに車外に出てください。 または、ウインドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。 この白煙は、人体への影響はありません。また、火災の心配はありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。 やけどの原因となりますので、エアバッグの構成部品には触れないでください。

作動したエアバッグは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 交換しないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出

される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 [icon] が点灯します。

エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

取り付け位置

エアバッグ	格納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード部
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部の運転席パネル
サイドバッグ	運転席および助手席シートの外側シートクッション、ならびに後席、上部
ペルビスバッグ	運転席および助手席シートの外側シートクッション、下部
ウインドウバッグ	A ピラー側方から C ピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。 助手席シートに乗員が座っているとシステムが誤って判断する原因になり、衝突の際に助手席エアバッグが作動するおそれがあります。作動したエアバッグは新品と交換してください。

運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは、運転者と乗員の頭部や胸部を保護する効果を高めます。

ヘッドバッグは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルト着用の有無に応じて作動します。
- 車内の他のエアバッグの作動に関係なく作動します。

車両が横転または転覆したときは、フロントエアバッグは通常作動しません。 システムが車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに、フロントエアバッグは作動します。

助手席のチャイルドセーフティシート自動検知装備車両： 助手席エアバッグは、システムが助手席シートに乗車していることを検知した場合のみ作動します。 センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] は点灯しません(▷ 62 ページ)。

チャイルドセーフティシートが助手席シートに装備されていて、センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯しない場合

- チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー非装備チャイルドセーフティシートが装着されている、または
- トランスポンダー装備チャイルドセーフティシートが正しく装着されていない。

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグ ① はステアリングコラムの下で作動します。 フロントエアバッグと一緒に展開します。 運転席ニーバッグは前面衝突の際に特定の規定値を超えるとフロントエアバッグと一緒に作動するように設計されています。 運転席ニーバッグは、正しい位置で着用されたシートベルトと組み合わされて最適に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の以下のような傷害を軽減して乗員保護効果を高めます。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーを使用するときは、安全上の理由からメルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。

シートカバーには、サイドバッグ / ペルビスバッグ作動時に断裂する糸で縫製が施されている必要があります。さもないと、サイドバッグ / ペルビスバッグが正しく作動せず、事故が起きたときに適切な保護効果が発揮されなくなります。最適なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

フロントサイドバッグ ① とリアサイドバッグ ② は外側シートクッション脇で作動します。

作動時は、サイドバッグは衝撃が発生した車両側の車両乗員の胸部に補助的な保護をもたらします。 ただし、それらは以下は保護しません。

- 頭部
- 頸部
- 腕

サイドバッグは以下の条件で作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの使用とは独立して

- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

車両が横転した場合、サイドバッグは通常は作動しません。 システムが車両の横方向の高い減速または加速を検知し、サイドバッグの作動によってシートベルトよりもたらされるものに補助的な保護を与えると判断した場合に、サイドバッグは作動します。

ペルビスバッグ

⚠ 警告

シートカバーを使用するときは、安全上の理由からメルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。

シートカバーには、サイドバッグ / ペルビスバッグ作動時に断裂する糸で縫製が施されている必要があります。さもないと、サイドバッグ / ペルビスバッグが正しく作動せず、事故が起きたときに適切な保護効果が発揮されなくなります。最適なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

側面衝突時に衝撃を受けた側の運転席または助手席ペルビスバッグが作動し、乗員の保護効果を高めます。

ペルビスバッグ ① は、外側シートクッションの脇および下で作動します。 それらは以下のときに作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

車両が横転すると、ペルビスバッグは通常は作動しません。例外：システムが横方向に車両の高い減速または加速を検知し、シートベルトによりもたらされるものに補助的な保護を与えることができると判断した場合。

ℹ ペルビスバッグは特定の国でのみ使用できます。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグ ① は、車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部や腕ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側面に内蔵され、A ピラーから C ピラー間の範囲で作動します。

ウインドウバッグ は以下の条件で作動します。

- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 衝撃を受けた側
- 運転席側と助手席側では、車両が横転し、ウインドウバッグの作動がシートベルトよりもたらされるものに補助的な保護を与えることができるとシステムが判断した場合
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

NECK PRO アクティブヘッドレスト / NECK PRO ラグジュアリーヘッドレスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ヘッドレストカバーは、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正品を使用してください。

承認されていないヘッドレストカバーの使用が、NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストの適切な作動を妨げることがあります。そのため、NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが意図した保護を行なわないおそれがあります。

お求めの際は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストは、運転者および助手席乗員の頭部および頸部の保護を高めます。一定の強さの後方衝突の際に、運転席と助手席の NECK PRO アクティブヘッドレスト / NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが前方および上方に動きます。 これにより、頭部へのより良い支持を行ないます。

衝突の際に NECK PRO アクティブヘッドレスト / NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが作動した場合は、運転席と助手席シートの NECK PRO アクティブヘッドレスト / NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストをリセットしてください。 (▷ 54 ページ)さもないと、他の後方衝突の際に補助的な保護を行ないません。 NECK PRO アクティブヘッドレスト / NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストは前方に動き、調整できなくなります。

後方衝突の後は NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検することをお勧めします。

作動している NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのリセット

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレスト

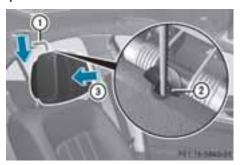
▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッション上部を前方の矢印の方向 ① に傾けます。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向 ② に停止するまで押し下げます。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向 ③ にしっかりと押し、確実にロックさせます。

▶ もう一方の NECK PRO アクティブヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

ℹ NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業には強い力が必要になります。 NECK-PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なうのが困難な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

NECK PRO ラグジュアリーヘッドレスト

NECK PRO ラグジュアリーヘッドレスト

▶ 車両の書類入れからリセットツール ① を取り出します。

▶ リセットツール ① を、NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストとヘッドレストリアカバーの間のガイド ② に差し込みます。

▶ ヘッドレスト作動機構の固定音が聞こえるまで、リセットツール ① を下方に押します。

▶ リセットツール ① を引き出します。

▶ 固定されるまで NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのクッションを後方に ③ しっかり押します。

▶ もう一方の NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

▶ リセットツール ① を車両の書類入れに戻します。

ℹ NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのリセットが困難な場合は、この作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実行してください。

PRE-SAFE®（乗員保護装置）

⚠ 警告

シートの位置を調整するときは、乗員が挟まれてけがをしないように注意してください。

❗ シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE® は車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護に備えるための機能を提供します。

PRE-SAFE® は以下のときに作動します。

- 緊急ブレーキの状況などで BAS が作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車で BAS プラスが強力に介入したとき
- ディストロニック・プラス装備車で、レーダーセンサーが特定の状況で差し迫った衝突の危険を検知したとき
- 物理的限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき

PRE-SAFE® は感知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック / アクティブマルチコントロールシートバック装備車では、シートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧を高めます。
- 車が横滑りすると、スライディングルーフ / パノラミックスライディングルーフおよびサイドウインドウが少し開いた状態まで閉じます。

事故につながることなく危険な状態が過ぎた場合は、PRE-SAFE® がシートベルトの張力を緩めます。 マルチコントロールシートバック / アクティブマルチコントロールシートバック装備車のサイドサポートの空気圧が元の状態に戻ります。 PRE-SAFE® により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき

▶ 停車中に、バックレスト角度やシートの前後位置を少し動かします。
  シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整、 PRE-SAFE®に内蔵されたコンビニエンス機能に関するさらなる情報は、"シートベルトの調整" (▷ 57 ページ)にあります。

シートベルト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれのないように着用してください。 コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。 肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。 腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。 必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- とがった物やこわれやすい物にベルトストラップをかけないでください。これは特に、メガネ、ペン、鍵などが衣類の中、または表面にあるときがそうです。事故の際にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。
- 各シートベルトは必ず 1 人の乗員が使用します。 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。 その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長約 150 cm 未満または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため、適切なシートの適切なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。 さらなる情報は、本取扱説明書"安全装備"の章にある"子供を乗せるとき"をご覧ください。 チャイルドセー

フティシートを装着するときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 衝突の際に、乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストがほぼ垂直になっていることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷しているシートベルトや、改造されたシートベルト、事故で衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護機能を発揮することができません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故で衝撃を受けたシートベルトはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全のため、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正のシートベルトを使用してください。

シートベルトは、衝突の際に乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。 乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかるのを防ぎます。

シートベルトの着用

▶ シートを調整し、バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。 (▷ 102 ページ)

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくり引き出します。

▶ ベルトにねじれがないように、肩ベルトを肩の中央にかけ、腰ベルトを腰骨の位置にかけます。

▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。
シートベルトの調整：必要であれば、運転席および助手席シートベルトを上半身に自動的に合わせます。 (▷ 57 ページ)

▶ 必要であれば、シートベルトを適切な高さに調整します。 (▷ 57 ページ)

▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ④ でのシートベルトの解除についてのさらなる情報は、"シートベルトの解除"の記載事項をお読みください。 (▷ 57 ページ)

シートベルトの調整

シートベルト自動調節機能は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するように、自動的にシートベルトを調整します。

以下のときは、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ後、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置を **2** にした後、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだとき

シートベルト調整は、乗員とシートベルトの間にたるみを検知すると、一定の締め付ける力を適用します。 調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。 マルチファンクションディスプレイを使用してベルト調整のオンおよびオフを切り替えることができます (▷ 166 ページ)。

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能に内蔵された一部です。 PRE-SAFE® に関するさらなる情報は、"PRE-SAFE®（予期乗員保護システム）" (▷ 54 ページ)にあります。

シートベルトの高さ調整

フロントシートのベルトの高さを調整することができます。 シートベルトの上部が肩の中央にかかるような高さにベルトを調整します。

▶ **上げる：** ベルトアンカーをそのまま引き上げます。
ベルトアンカーはお好みの位置に調整できます。

▶ **下げる：** ベルトガイドのリリース ① を押して保持します。

▶ そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。

▶ ベルトガイドのリリース ① をはなし、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

▶ バックル ③ の解除ボタン ④ を押します。

▶ ベルトのプレート ② をベルトガイド ① にスライドして戻します。

運転席および助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [警告灯] は、乗員にシートベルトの着用を促します。 警告灯は点灯し続けるか点滅します。 また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯 [警告灯] が約 6 秒間点灯します。 運転者と助手席乗員がシートベルトを着用しているときは消灯します。

ℹ シートベルト警告灯 [警告灯] に関するさらなる情報は、"メーターパネルの表示灯と警告灯、シートベルト" (▷ 178 ページ)をご覧ください。

後席用シートベルトステータスインジケーター

例：後席左側の正しく着用している乗員の表示

後席用シートベルトステータスインジケーターは後席の乗員がシートベルトを着用しているかどうかを知らせます。 後席用シートベルトステータスインジケーターはベルトが着用されている後席を表示します。 ディスプレイのマーク [マーク] は着用しているシートベルトを示します。 シートベルトが着用されていない、またはシートに乗車していない場合は、マーク [マーク] が表示されます。

後席シートベルトステータスインジケーターは、以下の場合マルチファンクションディスプレイに約 30 秒 間表示されます。

- 発進して約 10 km/h の速度に到達した場合
- 走行中に後席の乗員がシートベルトを着用または外した場合
- 誰かが車両に乗る、または降り、車両が再度発進した場合

後席用シートベルトステータスインジケーターをただちに解除することもできます (▷ 168 ページ)。

ℹ 後席用シートベルト用ステータスインジケーターは一部の国でのみ使用することができます。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

⚠ 警告

シートベルトテンショナーは一度作動すると、保護機能がなくなり再使用できません。 したがって、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則をお守りください。 この規則について詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。 衝突の際に

シートベルトテンショナーが作動することがあります。

シートベルトはシートベルトテンショナーに装着されています。

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

ただし、シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、乗員の上体をバックレストに引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと同期しています。 その結果、乗員にかかる力はより広い範囲に分散されます。

シートベルトテンショナーは、次のような場合に作動します。

- エンジンスイッチがオンになっているとき
- 保護システムが作動しているとき。"SRS 警告灯" (▷ 47 ページ)をご覧下さい。
- フロントの各々の 3 点式シートベルトのバックルにベルトのプレートが固定されているとき
-

後席のシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態と独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて次のような場合に作動します。

- 正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- 側面衝突の際に、衝撃の反対側で車両が横方向に急激に減速または加速した場合
- 車両が横転または転覆した状況で、シートベルトテンショナーが保護機能を高めるとシステムが判断した場合

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 [警告灯記号] が点灯します。

事故のとき

道路事故の後

▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキをかけます。

▶ 周囲の安全を確認して、乗員は車から降りてください。

▶ 危険な場所に誰も近づかないようにしてください。 フェンスなどで区切った安全な場所に乗員を避難させてください。

▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用することが法律で義務付けられています。

車が動かなくなったとき

- シフトポジションを N にします。
- パーキングブレーキを解除します。
- 安全な場所まで車を押して移動してください。

  必要な場合は、同乗者か付近の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション N にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ℹ エンジンスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されます。 そのため、車を押すときやダイナモメーターで性能をテストするときなどは、車外に閉め出されるおそれがあります。

ℹ 踏切内で車が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。 緊急を要する場合は、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長が約 1.50m 未満および 12 歳以下の子供は常に、車両の適切なシートに装着した特別のチャイルドセーフティシートで固定しなければなりません。 シートベルトは子供向けに設計されていないため、これは必要なことです。
- 助手席の後ろ向きのチャイルドセーフティシートに子供を固定して走行しないでください。例外：助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両でチャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きチャイルドセーフティシートに子供が固定されている場合
- 助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。 子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。 衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を拘束することができなくなります。 その結果、子供が致命的なけがをするおそれがあります。 そのため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取付説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。 子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体をシートクッションに接触させる必要があります。 そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正のシートカバーを使用してください。 シートカバーが損傷した場合は、必ずメルセデス・ベンツ純正のカバーと交換してください。

必ず純正品のチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートに固定してあっても、保護者のいない子供を車両に残さないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

ホールド機能に関する注意事項をご覧ください。これは同じキーワードで見つけられます。

⚠ **警告**

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や他の乗員がけがをする危険性が高くなります。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い荷物やかたい荷物を積むときは、確実に固定してください。 詳しくは、さくいんにある"荷物を積むときの注意点"をご覧ください。

子供を車両に乗車させるときは、メルセデス・ベンツ車両のために推奨されたチャイルドセーフティシートを使用して子供を固定してください。 チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。 理想的には、チャイルドセーフティシートは適切な後席に取り付けてください。 走行時は子供が固定されていることを常に確認してください。

メルセデス・ベンツは、記載されているチャイルドセーフティシートの使用をお勧めします。(▷ 68 ページ) 適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で取得できます。

ℹ チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。 詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート（助手席）

⚠ **警告**

助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグの展開により、助手席シートのチャイルドセーフティシートに固定されている子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。展開したときに子供が助手席エアバッグのすぐそばにいる場合は、特に危険です。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは、必ず適切なリアシートに装着してください。
- 前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをできるだけ後方に下げてください。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーが装備されていない車両
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両で、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きチャイル

ドセーフティシートが助手席シートに装着されていない場合
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装着されている車両で、助手席エアバッグオフ表示灯 [⊠₂] が点灯しない場合

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

助手席側サンバイザーに貼付されている警告ステッカー

後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートの警告マーク

前方に装着されたエアバッグによって保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。

チャイルドセーフティシートセンサー（助手席）

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯 [⊠₂] が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。 助手席エアバッグが作動した場合、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

以下のように対処してください。

- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシートセンサーの点検を受けてください。

助手席のチャイルドセーフティシートセンサーが正しく機能し、通信を行なうことができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。 チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接触するようにしてください。 チャイルドセーフティシートが適切に装着されていないと、事故の際に保護機能を発揮することができなくなり、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ **警告**

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- IC カードや磁気カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート自動検知センサーシステムへの干渉の原因になることがあります。 システムの故障につながります。 チャイル

ドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーがチャイルドセーフティシートに装着されていなくても、助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯する原因になることがあります。 事故の間に助手席エアバッグが作動しなくなります。 エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわしたときに、SRS 警告灯 が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯 が少しの間点灯しなくなる可能性もあります。

P00.30-2041-31

車両の助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知がない場合は、特別なステッカーによって示されます。 ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。 助手席ドアを開くと、このステッカーが見えます。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知非装備車両： エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわすと、助手席エアバッグオフ表示灯 が短時間点灯しますが、 機能はありません。助手席にチャイルドセーフティシート自動検知があることを示してはいません。

チャイルドセーフティシート用の助手席のセンサーシステムは、チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きの特別なメルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートが装着されているかを検知します。 この場合、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯します。 助手席エアバッグの機能が解除されます。

ℹ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合でも、助手席側の以下の装置は通常どおりに作動します。

- サイドバッグ
- ペルビスバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

リアシート用の ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

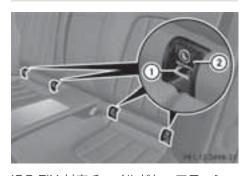
⚠ 警告

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置により固定されているチャイルドセーフティシートは、体重約 22 kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。 そのため、体重約 22 kg 以上の子供は、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で固定されたチャイルドセーフティシートで固定しないでください。 同様に子供の体重が 22 kg 以上の場合は、チャイルドセー

フティシートを車両のシートベルトで固定します。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

⚠ 警告

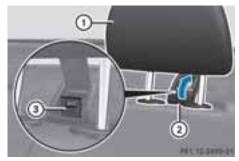
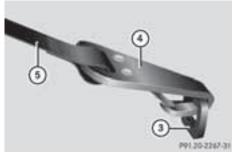
チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能が得られなくなるおそれがあります。 その結果、衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に、この装置で固定された子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、固定リング ① の保護キャップ ② を内側に倒します。

- ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を取り付けます。 ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

ISO-FIX は、特別に設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。 2 つの ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定リングはリアシートの左および右に装着されています。

テザーアンカー

テザーアンカー

テザーアンカーは、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。 この装置は、傷害の危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは、リアヘッドレストの後方にあります。

- ヘッドレスト ① を引き上げます。
- テザーアンカー ③ のカバー ② を上方に倒します。
- ヘッドレスト ① の下の 2 本の支柱の間にテザーアンカーベルト ⑤ を通します。
- テザーアンカーフック ④ をテザーアンカー ③ に引っかけます。

- テザーアンカーベルト ⑤ にねじれがないことを確認します。
- テザーアンカー ③ のカバー ②を下方に倒します。
- 固定されるまでヘッドレスト ① を下にスライドします(▷ 104 ページ)。

  テザーアンカーベルト ⑤ の正しい取り回しが妨げられていないことを確認してください。
- テザーアンカーを使用して、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートを装着します。 装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。 テザーアンカーベルト ⑤ が締まっていることを確認します。

チャイルドセーフティシートセンサーの不具合

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
センターコンソールの [表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。 そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。
センターコンソールの [表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。 または イグニッションをオンにすると警告灯 [警告灯] が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が短い間点灯しない。	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードや磁気カード [表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

▶ **チャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける：** 助手席シートを最も後方に、そしてベルトの引き出し口の高さを最も低い位置に動かします。

下表の記号説明

X　このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート

U　この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

UF　このカテゴリー（適応体重）に適合する"ユニバーサル" の前向きチャイルドセーフティシートに適切

L　推奨しているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の"推奨チャイルドセーフティシート" （▷ 68 ページ）表をご覧ください。

助手席シート

カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグの機能は解除されていない	助手席エアバッグの機能は解除されている
カテゴリー（適応体重） 0：10 kg 以下	X	UL
カテゴリー 0+：13 kg 以下	X	UL

カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグの機能は解除されていない	助手席エアバッグの機能は解除されている
カテゴリー（適応体重）I： 9 ～ 18 kg	UFL	UL
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	UFL	UL
カテゴリー III： 22 ～ 36 kg	UFL	UL

助手席チャイルドセーフティシート自動検知装備車：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。 助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯していなければなりません。

リアシート

カテゴリー（適応体重）	左、右
カテゴリー（適応体重） 0： 10 kg 以下	UL
カテゴリー 0+： 13 kg 以下	UL
カテゴリー（適応体重） I： 9 ～ 18 kg	UL
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	UL
カテゴリー III： 22 ～ 36 kg	UL

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

下表の記号説明

X　この体重やサイズのカテゴリーで ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISO-FIX のポジション

IUF　この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーに属している ISO-FIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL　推奨しているような ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 68 ページ)表をご覧下さい。

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

重量カテゴリー 0： 約 10 kg 以下、約 6 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL

重量カテゴリー 0+： 約 13 kg 以下、約 15 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

カテゴリー（適応体重） I： 約 9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

純正チャイルドセーフティシート

助手席シートにチャイルドセーフティシートを装着するとき：

▶ 助手席シートを最下位および最後方の位置に動かします。

カテゴリー（適応体重）0： 約 10 kg 以下、生後 6 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） 0+： 約 13 kg 以下、生後 15 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） I： 約 9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133

注文番号 (A 000 ...)	970 11 0 0	970 16 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

カテゴリー（適応体重）II/III： 約 15 ～ 36 kg、4 ～ 12 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1 ...)	03 3011 48 04 3011 48	03 3011 48 04 3011 48
注文番号 (A 000 ...)	970 12 0 0	970 17 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 3011 98	04 3011 98
注文番号 (A 000 ...)	970 18 0 0	970 19 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

推奨 "ユニバーサル" ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート：
幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0： 10 kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0+： 13 kg 以下

サイズ等級	E	D、C
メーカー	Britax Römer	–
タイプ	ベビーセーフ ISO-FIX プラス	–
認証番号 (E1 ...)	04 301146	–

注文番号	B6 6 86 8224	–
チャイルドセーフティシート検知システム	非対応	–

カテゴリー（適応体重）Ⅰ： 9 ～ 18 kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号（E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号（E1 ...）	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供が同乗しているときは、リアドアとリアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開き、子供や他の乗員がけがをするおそれがあります。

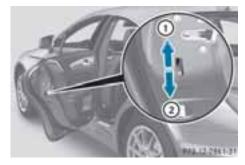
⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートに子供を乗せている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、長時間高温や低温にさらされると、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ重傷を負うおそれがあります。

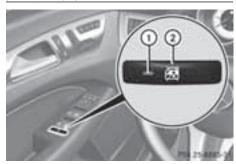
また、ホールド機能に関する注意事項を守ってください。 この情報については、さくいんをご覧ください。

リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを使用して、各ドアを個別にロックできます。 チャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。 車が解錠されているときは、車外のドアハンドルを操作してドアを開くことができます。

▶ **設定する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ① に押し上げます。

▶ チャイルドプルーフロックが正常に設定されていることを確認します。

▶ **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ② に押し下げます。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック

▶ **設定 / 解除する：** スイッチ ② を押します。
表示灯 ① が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチでは、リアサイドウインドウを操作できます。 表示灯 ① が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

走行安全システム

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS(**A**nti-lock **B**raking **S**ystem)（アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS(**B**rake **A**ssist **S**ystem) （ブレーキアシスト）
- BAS プラス（**B**rake **A**ssist **S**ystem PLUS）（ブレーキアシストプラス）
- アダプティブブレーキライト
- ESP® (**E**lectronic **S**tability **P**rogram) （エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD （**E**lectronic **B**rake-force **D**istribution）（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- PRE-SAFE®ブレーキ

重要な安全上の注意

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できないだけでなく、物理的法則を超えることもできません。 走行安全装備は、運転の補助のために設計された単なる支援に過ぎません。 先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。 常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分な接触があるときにのみとの安全な距離を保ってください。 注意して運転してください。

ℹ 記載している走行安全装備は、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。 "タイヤとホイール" (▷ 250 ページ)のタイヤ、推奨されるタイヤのトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。

冬の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S tyres) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。 このようにすることで、本章に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。 ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。 さらに、走行安全装備が解除されます。 横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障しているときは、走行安全装備をふくめた他のシステムも作動しません。 ABS 警告灯 (▷ 182 ページ) とメーターパネル (▷ 168 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることで、ブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。 そのため、ブレーキをかけながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、約 8 km/h 以上の速度から作動します。 滑りやすい路面では、軽くブレーキを利かせただけでも ABS は作動します。

イグニッションがオンのときに、メーターパネルの黄の ABS 警告灯 (ABS) は点灯します。 エンジン作動中は消灯します。

ブレーキ警告灯

▶ **ABS が作動したとき：** 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき：** ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ブレーキ時に ABS が作動すると、ブレーキペダルが小刻みに振動することがあります。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

BAS（ブレーキアシスト）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。 事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BAS の機能が解除されます。

BAS プラス（ブレーキアシストプラス）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

BAS プラスは、ディストロニック・プラス装備車両でのみ使用できます。

BAS プラスは、約 7 km/h 以上の速度で危険な状態のときにブレーキを利かせる補助を行ない、交通状況を評価するためにレーダーセンサー技術を使用します。

レーダーセンサーシステムを利用して、BAS プラスは車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h までの速度では、BAS プラスは例えば停車または駐車している車両など、停止している障害物も検知できます。

前面衝突を避けるため、BAS プラスは以下の状況で必要な制動力を算出します。

- 障害物に接近したとき
- BAS プラスが衝突の危険を感知したとき

約 30 km/h 以上の速度で走行しているとき： ブレーキを素早く踏むと、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

約 **30 km/h** 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは作動します。ブレーキ操作は、可能な限り最後の瞬間に行なわれます。

BAS プラスが特に強力な制動力を要求する場合は、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS プラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離したとき
- 後方衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に障害物が感知されないとき

以下の車両は、電波望遠鏡施設周辺ではレーダーセンサーシステムが自動的にオフになります。

- COMAND およびナビゲーション装備車
- Audio 20 および Becker® MAP PILOT 装備車
  Becker® MAP PILOT を接続しなければなりません。別冊の取扱説明書をご覧ください。

以下の車両は、電波望遠鏡施設周辺ではマルチファンクションディスプレイを使用してレーダーセンサーシステムをオフにしなければなりません。

- COMAND およびナビゲーション装備車
- Audio 20 および Becker® MAP PILOT 非装備車
- オーストラリア向け車両

マルチファンクションディスプレイを使用してレーダーセンサーシステムをオフにすることに関する情報は、(▷ 166 ページ)をご覧ください。

走行時に BAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて作動していなければなりません。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

レーダーセンサーシステムが誤作動すると、BAS プラスは使用できません。 その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

⚠ 警告

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。そのような場合、BAS プラスは作動しません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ **警告**

BAS プラスは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況では作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

アダプティブブレーキライト

約 70 km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを利かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。 再度ブレーキを利かせると、ブレーキランプが連続的に点灯します。 非常点滅灯は、約 10 km/h より速く走行すると自動的に消灯します。 非常点滅灯スイッチ (▷ 110 ページ) を使用して非常点滅灯を消灯することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

⚠ **警告**

ESP® が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。

! 4MATIC 装備車両： ブレーキテスター上でパーキングブレーキを点検するときは、イグニッションをオフにしてください。

ESP® のアクティブなブレーキ介入により、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両：後軸を上げて車両をけん引するときは、ESP®の注意事項を遵守することが重要です (▷ 244 ページ)。

エンジンをかけた状態でメーターパネルの [OFF] 表示灯が点灯し続けるときは、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 [ESP] および警告灯 [OFF] が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 185 ページ) とメーターパネル (▷ 168 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本以上のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させます。 また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。 ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。 また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネルの ESP® 表示灯が点滅します。

ESP® が作動する場合

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

以下のときは、故障 / 警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯 / 表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯
- ESP® オフ表示灯
- ABS 警告灯

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。
しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。 消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ℹ 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。 指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

4ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

トラクションコントロールは ESP® の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、各駆動輪に個別にブレーキを効かせます。 これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。 さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

ESP® の解除 / 作動（AMG 車を除く）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

▶ **解除する：** (▷ 166 ページ)
メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。

▶ **作動させる：** (▷ 166 ページ)
メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

ECO スタート / ストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンをオフにします。 再び発進しようとすると、自動的にエンジンが始動します。 ESP® は、直前の設定状態に維持されます。 たとえば、エンジンを停止する前に ESP® が解除されていたときは、エンジンを再始動しても ESP® は解除された状態のままになります。

ESP® を解除しているとき 1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅します。 このような状況では、ESP® は車の走行姿勢を安定させることができなくなります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ESP® を解除したとき

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを踏むと、ESP® は自動的に作動します。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。 車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。

ESP® の解除 / 作動（AMG 車）

スポーツモードの作動 / 解除

⚠ **警告**

スポーツモードが作動しているときは、横滑りおよび事故の危険が高まります。

以下に記載されてる状況でのみスポーツモードを作動してください。

▶ **作動させる：** スイッチ ① を軽く押します。
メーターパネルのハンドリングモード警告灯 [SPORT] が点灯します。マルチファンクションディスプレイに SPORT handling mode というメッセージが表示されます。
スポーツモードは、車両のオーバーステアおよびアンダーステア特性が必要なときに、特定の道路での走行のために設計されています。 スポーツモードでの走行は、危険な走行状況に対応できる、非常に能力のある経験豊かな運転者を必要とします。

▶ **解除する：** スイッチ ① を軽く押します。
メーターパネルのハンドリングモード警告灯 [SPORT] が消灯します。

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

次のような状況では、スポーツモードにした方が走行しやすい場合があります。

• スノーチェーンを装着しているとき
• 深い雪の上を走行するとき
• 砂地や砂利道を走行するとき

スポーツモードの作動時に 1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 表示灯 [ESP] が点滅します。

ESP® は限られた程度までのみ車の姿勢を安定させます。

スポーツモードが作動したとき

• ESP® は限られた程度までのみ走行安定性を確保します。
• トラクションコントロールは引き続き作動します。
• ブレーキを踏むと、ESP® は自動的に作動します。
• エンジントルクが限られた度合いに制限され、駆動輪が空転することがあります。 車輪の空転により、地面を掘る動作による、より良い駆動力につながります。

ECO スタート/ストップ機能装備車両：車両が停止すると、ECO スタート/ストップ機能が自動的にエンジンを停止します。再度発進すると、自動的にエンジンが始動します。 ESP® は、以前の設定状態のままになります。 例：エンジンを停止する前に ESP® が解除されていたときは、エンジンを再始動したときは ESP® は解除されたままになります。

ESP® の解除 / 作動

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

▶ **解除する：** メーターパネルの ESP® オフ警告灯 [ESP OFF] が点灯するまで、スイッチ ① を押します。

マルチファンクションディスプレイに [ESP] OFF というメッセージが表示されます。

車両のオーバーステアおよびアンダーステア特性を必要とするとき、特定の道路での走行で ESP® を解除します。 ESP® がない走行は、危険な走行状況に対応できる、非常に能力のある経験豊かな運転者を必要とします。

▶ **作動させる：** スイッチ ① を軽く押します。

メーターパネルの ESP® オフ警告灯 [ESP OFF] が消灯します。 マルチファンクションディスプレイに [ESP] ON というメッセージが表示されます。

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

ESP® を解除しているとき 1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 表示灯 [ESP] は点滅しません。

このような状況では、ESP® は車の走行姿勢を安定させることができなくなります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ESP® を解除したとき

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- PRE-SAFE® は使用できなくなります。ブレーキを強く利かせ、ESP® が作動しても、それも作動しません。
- ブレーキを利かせると、ABS はさらにサポートを行ないます。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。 車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。

ECO スタート/ストップ機能装備車両：車両が停止すると、ECO スタート/ストップ機能が自動的にエンジンを停止します。 再度発進すると、自動的にエンジンが始動します。 ESP® は、以前の設定状態のままになります。 例：エンジンを停止する前に ESP® が解除されていたときは、エンジンを再始動したときは ESP® は解除されたままになります。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

⚠ **警告**

EBD が誤作動すると、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 182 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 172 ページ) に関する情報を遵守してください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を監視してコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作を可能にします。 ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 148 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 130 ページ) も備えています。

PRE-SAFE®ブレーキ

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 71 ページ)

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車のみで使用できます。

PRE-SAFE® ブレーキは、先行車両と衝突する危険性を最小限に抑え、またはそのような衝突の影響を低減するよう運転者を支援することができます。 PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知すると、自動でブレーキを利かせるとともに、視覚的および聴覚的に警告を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキは、運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h 以上の速度で、数秒間に渡り前方を走行している車両と保たれている距離が不十分なとき

  メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。
- 約 7 km/h 以上の速度で、先行車両に急速に接近した場合

  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

約 7 km/h の速度から、運転者および乗員がシートベルトを着用している場合は、約 200 km/h までの速度で PRE-SAFE® ブレーキは自動的に車両にブレーキを利かせることができます。

システムの性質上、特に複雑な運転状況では PRE-SAFE® ブレーキが不必要な警告や介入を行なうことがあります。

PRE-SAFE® ブレーキは、以下でいつでも作動を解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏み込む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

PRE-SAFE® ブレーキによるブレーキ操作は、以下の状況では自動的に解除されます。

- 障害物を回避する運転操作を行なっているとき
- 後方衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

レーダーセンサーシステムを利用して、PRE-SAFE® ブレーキは車両の前方にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h までの速度で、PRE-SAFE® ブレーキは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

障害物に接近し、PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知すると、システムは視覚的および聴覚的の両方で運転者に警告を行ないます。運転者がブレーキ操作や回避操作を行なわなかったときは、自動的に車両に緩やかにブレーキを利かせることにより、システムが運転者に警告を行ないます。 衝突の危険が高まると、予防的な乗員保護システム（PRE-SAFE®）が作動します (▷ 54 ページ)。

約 30 km/h 以上の速度で、運転者がブレーキを利かせる、回避操作を行なう、または著しく加速するようなことを行なわなかった場合は、自動緊急ブレーキのレベルまで自動ブレーキが作動することがあります。自動緊急ブレーキは、回避できなくなった事故のすぐ直前までは作動しません。

⚠ 警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE® ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。 ご自身でブレーキをかけないと衝突するおそれがあります。 自動緊急ブレーキにより衝突を防ぐことはできません。 事故の危険性があります。

必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ **警告**

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

先行車との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを作動または解除します(▷ 166 ページ)。
ポジション **P** に入っている、または約 35 km/h より速く走行しているときは、 マークが表示されます。

走行時に PRE-SAFE®ブレーキが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムをオンにして作動させなければなりません(▷ 166 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

盗難防止システム

イモビライザー

▶ **キー操作で待機状態にする：** エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー操作で待機状態にする：** イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。

▶ **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

- ▶ **待機状態にする：** キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  表示灯 ① が点滅します。 盗難防止警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。
- ▶ **解除する：** キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- 車（エマージェンシーキーによる解錠）
- トランクリッド
- ボンネット

- ▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの [解錠] または [施錠] ボタンを押します。
  警報が停止します。

または

- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
  警報が停止します。
- ▶ **キーレスゴー操作で警報を停止させる：** 車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。
  警報が停止します。

または

- ▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
  警報が停止します。

開いたドアをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

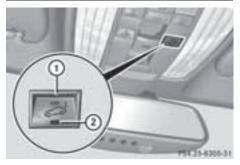
設定スイッチ

- ▶ 以下のことを確認してください。
  - ドアが閉じていること
  - トランクリッドが閉じていること

  この場合のみ、けん引防止機能が待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  約 30 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

解除スイッチ

- ▶ **解除する：** キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。
  けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除スイッチ

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が短く点灯します。
- ▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  けん引防止機能が解除されます。

安全装備

けん引防止機能は、以下の操作が行なわれると再び作動します。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- 例えばフェリーや車両運搬車に積載されるとき
- 立体駐車場などのターンテーブルに駐車するとき

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定スイッチ

▶ 以下のことを確認してください。
- サイドウインドウが閉じていること
- スライディングルーフが閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの掛かっている物がないこと

以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。

▶ 以下のことを確認してください。
- ドアが閉じていること
- スライディングルーフが閉じていること
- トランクリッドが閉じていること

この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除スイッチ

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除スイッチ

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点滅します。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除されたままになります。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままであるとき
- サイドウインドウが開いたままであるとき
- スライディングルーフが開いたままであるとき

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

キー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

以下のとき、子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除するおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 決して子供だけを車内に残さないでください。 短時間でも、車を離れるときは、車を施錠してキーを携帯してください。

⚠ **警告**

キーに重い物や大きなキーホルダーを付けていると、キーホルダー自体の重みでキーがまわったり、ステアリングに引っかかるおそれがあります。 そのため、エンジンが突然停止するおそれがあります。 また、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
エンジンスイッチに差し込むキーには、重い物や大きなキーホルダーなどを付けないでください。

- 以下にはキーを近付けないでください。
  - 携帯電話や他のキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属フィルムなどの金属類
  - 金属ケースのような金属物の中

  キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い電磁波を発生する物の近くにキーを保管しないでください。 電磁波の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

キーの機能

① 🔒 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン
③ 🔓 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する：** 🔓 ボタンを押します。

解錠操作をした後、約 40 秒以内にドアなどを開けないと、以下の状態になります。

- 車を再び施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する：** 🔒 ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠 / 解錠操作ができます。

- ドア
- トランクリッド
- 燃料給油口

解錠操作を行なうと、方向指示灯が 1 回点滅します。 施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るキーアンサーバック機能を設定することもできます。 キーアンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。 (▷ 166 ページ)

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます。(▷ 166 ページ)

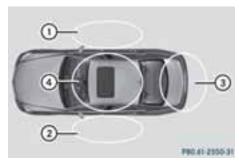
キーレスゴー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

埋め込み型心臓ペースメーカー、埋め込み型除細動器等の医療用電子機器を使用されている方は、 車両に装備されているキーレスゴーアンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。

キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されています。 この電波が、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

医療用電子機器を使用されている方は、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。

、キーレスゴーアンテナの検知範囲

① 右側外部アンテナの検知範囲

② 左側外部アンテナの検知範囲

③ リアアンテナの検知範囲

④ 車室内アンテナの検知範囲

キーが車内にあれば、携帯していない乗員でもエンジンを始動することができますので、注意してください。

セントラルロックシステムでの施錠と解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車の施錠または解錠ができます。 このためには、必要なのはキーを携帯することのみです。 車外のドアハンドルのセンサーの表面に触れると、キーレスゴーにより車両とキーの間で無線通信が確立します。 エンジン始動時および走行中は、定期的な無線通信の確立により、キーレスゴーは車内に有効なキーがあるかどうかも確認します。

キーレスゴー機能と従来のキーのものを組み合わせて、たとえばキーレスゴー操作を使用して解錠し、🔒 スイッチを押して施錠することもできます。

キーレスゴーで施錠 / 解錠するときは、キーと目標のドアのドアハンドルとの距離は約 1 m 以内である必要があります。

▶ **車を解錠する：** ドアハンドルの内側に触れます。

▶ **車を施錠する：** ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：** 凹部のセンサー表面 ② に一定時間触れます。

▶ **トランクリッドを解錠する：** トランクリッドのハンドルを引きます。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドア、またはトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。 (▷ 80 ページ)

以下のいずれかの方法で、盗難防止警報システムを解除します。

▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの 🔓 または 🔒 ボタンを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する：** エンジンスイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴーで車を施錠 / 解錠します。 キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーを使用して車両を解錠しても、燃料給油フラップは自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口を解錠する：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、直ちに医師の診断を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池点検

▶ 🔒 または 🔓 ボタンを押します。
キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。
キーの表示灯 ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換します。 (▷ 89 ページ)

ℹ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、 🔒 または 🔓 ボタンを押すと、

- 車の施錠
- 車の解錠

ℹ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

電池交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 88 ページ) 。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、電池収納部カバー ① が浮き上がるまで矢印の方向に押します。 このとき、指で電池収納部カバー ① を押さえないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。

- キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。
- 電池のプラス（+）面を上にして、新しい電池を取り付けます。 このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。
- 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。
- 電池収納部カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。
- エマージェンシーキー ② をキー (▷ 88 ページ)に差し込みます。
- キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーの不具合

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
キーで車を施錠 / 解錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン機能で再度車両の施錠 / 解錠を行なってください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのハンドルに向け、 🔓 または 🔒 スイッチを押します。 それでも施錠 / 解錠できないとき ▶ キーの電池 (▷ 89 ページ) を点検し、必要であれば交換してください。(▷ 89 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 93 ページ) または解錠 (▷ 93 ページ) してください。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 93 ページ) または解錠 (▷ 93 ページ) してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で施錠 / 解錠できない。	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのドアハンドルに向け、 🔓 または 🔒 スイッチを押します。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのドアハンドルに向け、 🔓 または 🔒 スイッチを押します。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーレスゴーの点検を受けてください。 それでも施錠 / 解錠できないとき ▶ キーの電池 (▷ 89 ページ) を点検し、必要であれば交換してください。(▷ 89 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 93 ページ) または解錠 (▷ 93 ページ) してください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している ▶ シートヒーター、ルームライトなどの必ず必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。 それでも施錠 / 解錠できないとき ▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば交換してください。 (▷ 239 ページ) または ▶ ジャンプスタートを行なってください。 (▷ 240 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
キーレスゴーによるエンジン始動ができない。 キーが車内にある。	ドアが開いている。 そのため、キーが感知されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

以下のとき、子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除するおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 決して子供だけを車

内に残さないでください。 短時間でも、車を離れるときは、車を施錠してキーを携帯してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からのリモートコントロールセントラルロック
- 車速感応ドアロック
- 運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）
- 車両の施錠（エマージェンシーキー）

トランク

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンがかかっていて、トランクリッドが開いている場合は排気ガスが車内に入り込むことがあります。従って、エンジンがかかっているときはトランクリッドが常に閉じていることを確認してください。

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ トランクリッドの開いたときの寸法 (▷ 276 ページ)

トランクの中にキーを残したままにしないでください。 車外に閉め出されるおそれがあります。

自動開閉トランクリッド非装備車両では、 トランクリッドは以下のことができます。

- 車外から手動で開閉する
- 車外から自動で開く
- 内側から自動で開く
- エマージェンシーキーで解錠する

自動開閉トランクリッド装備車両では、 トランクリッドは以下のことができます。

- 車外から手動で開閉する
- 外側から自動で開閉する
- 内側から自動で開閉する
- エマージェンシーキーで解錠する

車外からの開閉

給油の開始

▶ キーの 🔓 ボタンを押します。

▶ ハンドル①を引きます。

閉じる

⚠ 警告

トランクリッドを閉じるときは、身体を挟まないように十分注意してください。

▶ 凹部 ① に手をかけて、トランクリッドを引き下げます。

▶ 必要であれば、キーの [🔒] スイッチ(▷ 86 ページ) またはキーレスゴー(▷ 87 ページ) で車両を施錠します。

ℹ キーレスゴーキーがトランク内にあるときは、トランクリッドは施錠させません。 再び開きます。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

トランクリッドを開閉するときは、周囲の安全を確認し、身体や物を挟まないように注意してください。 開閉操作を停止するには、トランクリッドのクローザースイッチをもう一度押すか、トランクリッドの外側にあるハンドルを引いてください。

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ トランクリッドの開いたときの寸法(▷ 276 ページ)

給油の開始

キーまたはトランクリッドのハンドルを操作して、トランクリッドを自動で開くことができます。

▶ トランクリッドが開くまで、キーの [ ] ボタンを押し続けます。

または

▶ トランクが解錠されている場合は、トランクリッドのハンドルを引いてただちに再度放します(▷ 93 ページ)。

閉じる

クローザースイッチおよびロックスイッチ(例：自動開閉トランクリッドおよびキーレスゴー装備車両)

▶ **閉じる：** トランクリッドのトランククローザースイッチ ① を押します。

自動開閉トランクリッドおよびキーレスゴー装備車両： トランクリッドを同時に閉じて施錠することができます。

▶ トランクリッドのロックスイッチ ② を押します。

ℹ トランク内にキーを置いたままにしていると、トランクリッドは施錠されません。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

トランクリッドを閉じるときは、周囲の安全を確認し、身体などを挟まないように十分注意してください。 障害物があるときは、ドアのトランクスイッチから手を放してクローズ操作を停止させます。

ℹ トランクリッドの開いたときの寸法(▷ 276 ページ)

開閉

- **開く：** トランクリッドが開くまで、トランクリッドのリモート操作スイッチ ① を引きます。
- **閉じる：** トランクリッドが閉じるまで、トランクスイッチ ① を押し続けます。

車両が停止して解錠されているときに、運転席からトランクリッドを開くことができます。

トランクの解錠（エマージェンシーキー）

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

キーまたはキーレスゴー操作でトランクを施錠できないときは、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシキーでトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。 （▷ 80 ページ）

- キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 88 ページ) 。
- エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーに確実に差し込みます。

- エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、 1 の位置から 2 の位置にします。
トランクが解錠されます。
- エマージェンシーキーを元の位置 1 に戻して、抜き取ります。
- エマージェンシーキーをキーに収納します。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

サイドウインドウを開くときは、身体などがサイドウインドウとドアフレームの間に挟まれないように注意してください。 また、サイドウインドウが開いているときにサイドウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。 サイドウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、またはスイッチを引き上げて、サイドウインドウを上昇させてください。

⚠ **警告**

サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、再びスイッチを押し上げて、サイドウインドウを開いてください。

> ⚠ **警告**
>
> 思わぬけがの原因となりますので、子供にサイドウインドウを操作をさせないでください。
>
> 決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 車から離れるときは、短時間であっても必ずキーをお持ちください。

> ⚠ **警告**
>
> 子供がチャイルドセーフティシートに着座している場合でも、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。 子供が以下のような傷害を負うおそれがあります。
>
> - 運転装置など車両の各部に触れて重傷や致命的な傷害を受けるおそれがあります。
> - 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
>
> 子供がドアを開くと、以下のような危険性があります。
>
> - 周囲の人に重傷や致命的なけがを負わせるおそれがあります。
> - 子供が車外に出てけがをしたり、通行車にはねられ重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。
>
> 子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

> ⚠ **警告**
>
> 吸盤にはレンズと同じ効果があり、熱を集中させます。 その結果、車両に引火するおそれがあります。
>
> そのため、吸盤の付いた物をウインドウに取り付けないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サイドウインドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクロージング機能
- サイドウインドウのリセット

サイドウインドウの不具合

⚠ **警告**

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しないが、原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときは、挟まれている人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性がある場合は、ただちにスイッチから手を放してください。 自動操作中は、いずれかの方向にスイッチを軽く押してスライディングルーフを停止してください。

⚠ **警告**

パノラミックスライディングルーフのガラスは、事故のときに割れるおそれがあります。 シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。 確実にシートベルトを着用してください。

⚠ **警告**

思わぬけがの原因となりますので、子供にはスライディングルーフの操作をさせないでください。

決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 車から離れるときは、短時間であっても必ずキーをお持ちください。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

i スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。 これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。 これらを低減または除去するには、スライディングルーフの調整位置を変更するか、サイドウインドウを少し開いてください。

スライディングルーフの操作

開閉

オーバーヘッド操作パネル

① チルトアップ

② 開く

③ 閉じる / チルトダウン

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。

▶ [スイッチ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

i [スイッチ] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。 再度スイッチを押すと、自動で開閉している電動ブラインドが停止します。

サンシェードは、スライディングルーフと連動して自動的に開きます。 サンシェードは、スライディングルーフを閉じているか、チルトアップしているときに手動で開閉できます。

i エンジンを停止するか、キーを抜いた後は、スライディングルーフの操作を続けることができます。 この機能は 5 分間、またはフロンドドアを開くまで作動したままになります。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが 0 の位置にあるか、またはそれが抜かれている場合は、スライディングルーフは自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフの後部がチルトアップした状態に保たれます。

i レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じている間に遮られると、再度少し開きます。 そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、スライディングルーフは閉じません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

リセット

! リセット操作を行なっても、まだスライディングルーフが開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフがスムーズに作動しないときは、リセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。

▶ スライディングルーフを後部でいっぱいに上げます。(▷ 98 ページ)

▶ [スイッチ] スイッチをそのまま数秒間押し続けます。

▶ スライディングルーフが再度全開閉できることを確認します(▷ 98 ページ)。

▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフの不具合

⚠ **警告**

スライディングルーフがより強い力で閉じたり、挟み込み防止機能が作動しない場合は、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
スライディングルーフを閉じることができず、原因が分からない。	スライディングルーフが閉じているときに挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの [スイッチ記号] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 スライディングルーフは、より強い力で閉じます。 スライディングルーフが再度挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの [スイッチ記号] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

運転席のシートポジション

▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 103 ページ)

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

電動シートの調整(▷ 104 ページ)

シートを調整するときの留意点

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の垂直位置で着座している。
- シートベルトをきちんと装着できる。
- バックレストはほぼ垂直の位置になるように調整する。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整する。
- ペダルをきちんと踏み込める。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 105 ページ)

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

手動調整式ステアリングの調整(▷ 105 ページ)

電動調整式ステアリングの調整(▷ 105 ページ)

ステアリングを調整するときの留意点

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある。
- 足を自由に動かせる。
- メーターパネル内のすべてのディスプレイが確認できる。

▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 55 ページ)

▶ シートベルト② を適切に着用していることを確認してください。(▷ 56 ページ).

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨の低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください。(▷ 105 ページ)

▶ **メモリー機能装備車両：**メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します。(▷ 105 ページ)

シート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートは、キーを抜いても位置の調整ができます。そのため、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。シートを調整することで身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

走行中は運転席シートを調整しないでください。運転に集中できなくなったり、シートが動いて車両のコントロールを失うことがあります。その結果、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込んで負傷するおそれがあります。 とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。

注意：

- シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手を入れないでください。
- 車内の子供が機械部分の下に手を入れないようにしてください。

⚠ **警告**

シートを調整するときは、挟み込みがないことを確認してください。

エアバッグに関する注意事項をご覧ください。

子供は安全に乗車させてください。"子供を乗せるとき"をご覧ください。

⚠ **警告**

ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部が支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストによって正しく支えられていないと、事故のとき、首に重大な負傷をするおそれがあります。ヘッドレストが装着されていないときや正しく調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警告**

シートベルトはバックレストがほぼ垂直で、乗員がまっすぐに座っているときのみ、意図された保護の効果を発揮することができます。シートの位置はシートベルトが正しく装着できるようにしてください。バックレストをできるだけ垂直に調整してください。バックレストを後方に寝かせた状態で絶対に走行しないでください。事故のとき、または急ブレーキ時などに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。 シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。

シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

i 詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。
- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- マルチコントロールシートバックの調整
- アクティブマルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートヒーターの使用
- シートベンチレーターのオン / オフ

シートヒーターの使用

オン / オフの切り替え

⚠ 警告
シートヒーターを連続して使用すると、シートが異常に過熱するおそれがあります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温にも対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。 したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

運転席シートと助手席シートのスイッチ

スイッチの 3 つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約 8 分後にレベル **3**（強）から **2**（中）へ自動的に切り替わります。

約 10 分後にレベル **2**（中）から **1**（弱）へ自動的に切り替わります。

レベル **1**（弱）に設定した約 20 分後に、システムは自動的に停止します。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ **オンにする：**お好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

i バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

走行中はステアリングを調整しないでください。 走行中のステアリング調整あるいはステアリング調整機能がロックされていない状態での運転は、車両のコントロールを失う原因になるおそれがあります

電動ステアリング調整機能はどのような時でも作動します。 したがって、車内に、あるいはロックされていない車両に近づける状態で決して子供だけを残さないでください。 子供を車両に近づける状態にしたまま目を離すと、事故や重大なケガを引き起こすおそれがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- 助手席側ドアミラーの駐車時の位置

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

ライト

重要な安全上の注意

安全のため、昼間でもライトを点灯して運転することをお勧めします。 国により、ヘッドライトの操作は法令や自己責任によって異なります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

• ヘッドライト
• サイドランプ
• ヘッドライトのオートモード
• リアフォグランプ
• パーキングランプ

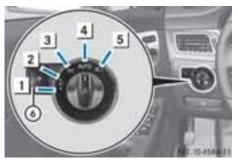
ライトの設定

設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

• ライトスイッチ
• コンビネーションスイッチ (▷ 110 ページ)
• マルチファンクションディスプレイ (▷ 166 ページ)

ランプスイッチ

操作

1 ◂P 左側パーキングランプ
2 P▸ 右側パーキングランプ
3 ≡00≡ 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
5 ≣D ロービーム / ハイビームヘッドライト
⑥ 0‡ リアフォグランプ

車から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトがまだ点灯している可能性があります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

車外ライト（車幅灯 / パーキングライト以外）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- キーが 0 の位置で運転席ドアを開いたとき

ヘッドライトのオートモード

⚠ 警告
ライトスイッチが AUTO にセットされていても、霧がかかる、雪が降っている、あるいは視界が良くない場合には、ロービーム ヘッドライトは自動的には点灯しません。 お客様や他の方々に危険がおよぶおそれがあります。 そのような場合には、ライトスイッチを ≣D にまわします。
オートマチックヘッドライトモード機能は補助のみを行ないます。 ライトの点灯 / 消灯に関する責任は常に運転者にあります。

AUTO は好ましいライトスイッチの位置です。 ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良）。

- エンジンスイッチのキーを 1 の位置にしたとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を作動させている場合は、デイタイムドライビングライトまたは車幅灯およびロービームヘッドライトが周囲の明るさの明るさ度合いよって自動的にオンまたはオフに切り替わります。

▶ **ヘッドライトのオートモードをオンにする：** ライトスイッチを AUTO にまわします。

ロービームヘッドライトがオンのときは、メーターパネルの緑色の表示灯 ≣D が点灯します。

ヘッドライト

⚠ 警告
ライトスイッチが AUTO にセットされていても、霧がかかる、雪が降っている、あるいは視界が良くない場合には、ロービーム ヘッドライトは自動的には点灯しません。 お客様や他の方々に危険がおよぶおそれがあります。 そのような場合には、ライトスイッチを ≣D にまわします。
オートマチックヘッドライトモード機能は補助のみを行ないます。 ライトの点灯 / 消灯に関する責任は常に運転者にあります。

イグニッションがオンで、ライトスイッチが ≣D の位置にあるときは、ライトセンサーが周囲の明るさの状況が暗いことを感知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトがオンになります。 これは、霧や雨のときに有利です。

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチのキーを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。
▶ ライトスイッチを ≣D にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 ≣D が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧の交通での車両の視界を改善します。 リアフォグランプの仕様についての国別の法律を遵守してください。

▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。
▶ ライトスイッチを ≣D または AUTO にまわします。

▶ [0‡] スイッチを押す。
メーターパネルの黄色の [0‡] 表示灯が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：** [0‡] スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の [0‡] 表示灯が消灯します。

サイドランプ

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [≡00≡] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P≡→] 右側または [←P≡] 左側パーキングランプを点灯してください。

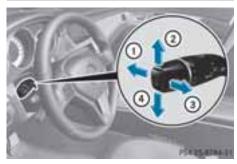
▶ **点灯する：** ライトスイッチを [≡00≡] にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 [≡00≡] が点灯します。

パーキングランプ

パーキングランプを点灯させると、車両の対応する横側が点灯します。

▶ **パーキングライトを点灯する：** キーがイグニッションに差し込まれていないか、または **0** の位置にあります。

▶ ライトスイッチを [←P≡] （車両の左側）または [P≡→] （車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ

① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

非常点滅灯

▶ **非常点滅灯の点灯：** スイッチ ①を押します。
すべての方向指示灯が点滅します。 このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたとき

は、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯の消灯：** スイッチ ①を再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70 km/h 以上の速度から車両が急減速して停止したとき

フルブレーキを利かせた後に車両が再度約 10 km/h 以上の速度に達すると、非常点滅灯は自動的にオフになります。

ℹ 非常点滅灯は、イグニッションがオフのときも点滅させることができます。

ヘッドライトウォッシャー

ライトが点灯していてエンジンがかかっている間は、"フロントウインドウウォッシャー"機能を約 5 回操作すると、ヘッドライトが自動的に清掃されます。(▷ 116 ページ) エンジンを停止すると、自動ヘッドライトウォッシャーはリセットされ、回数は 0 から再開します。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。 システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグライト強化機能が含まれます。 システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます (▷ 166 ページ)。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、前輪のステアリングの動きに合わせて、ヘッドライトを動かすシステムです。 このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。 歩行者、サイクリスト、動物などを認識できます。

以下のときに作動します： ヘッドライトが点灯しているとき。

コーナリングライト

コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。 ヘッドライトがロービームで点灯しているときにのみ作動します。

以下のときに作動します。

- 約 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合
- 約 40 km/h から 70 km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

非作動： 約 40 km/h 以上の速度で走行しているか、または方向指示灯をオフにする、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

作動： 約 110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくても約 1,000 m なんらかの大きなステアリングの動きがないか、または約 130 km/h 以上の速度で走行している場合

この情報はライト機能にのみ適用されます。 走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

非作動：作動後に、約 80 km/h 以下の速度で走行している場合

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転手の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動： 約 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプをオンにした場合

非作動：約 100 km/h 以上で走行しているか、または作動後にリアフォグランプをオフにした場合

アダプティブハイビームアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

アダプティブハイビームアシストは、運転を支援する機能です。運転者は視界や道路状況に応じて、ヘッドライトの下向き/上向きを手動で調整してください。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。

- 雪、雨、霧、時雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウの照度センサー付近が汚れていたり、曇っているとき、またはステッカーなどが貼られているとき

以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できなくなるおそれがあります。

- 歩行者など道路使用者がライトを持っていないとき
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトがさえぎられて検知できないとき
- まれなケースとして、ライトを持っている道路使用者の検知が遅れたり、まったく検知されないとき

ヘッドライトが自動的に切り替わらない場合や、車両の前を人が横切ったり車両に近づいてくるときに不意に切り替わる場合があります。

このような場合は、事故につながったり、乗員がけがをするおそれがあります。常に道路状況を確認しながら、必要であればライトを手動で下向きにしてください。

この機能を利用すると、ヘッドライトを自動的にハイビームとロービームに切り替えるよう設定できます。 システムは、反対方向を接近してくる、または自車の前方を走行しているライトを点灯した車両を検知して、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。 他車を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再度作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近にあります。

アダプティブハイビームアシストのオン / オフの切り替え

▶ **作動させる：** マルチファンクションディスプレイを使用してアダプティブハイビームアシストを作動させます。(▷ 166 ページ)

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを手応えのあるところを越えて矢印 ① の方向に押します。
暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させた場合は、マルチファンクションディスプレイの表示灯 [≣A] が点灯します。

約 45 km/h 以上の速度で走行している場合

ヘッドライトの範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて、自動的に設定されます。

55 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が認識されていない場合

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。 メーターパネルの [≣D] 表示灯も点灯します。

約 45 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されていない、または道路が十分に照らされている場合

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。 メーターパネルの [≣D] 表示灯が消灯します。 マルチファンクションディスプレイの表示灯 [≣A] は点灯したままになります。

▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。
メーターパネルの [≣A] 表示灯が消灯します。

ヘッドライト内側の曇り

外気の湿度が高いときは、ヘッドライト内面が曇ることがあります。

▶ ライトを点灯して発進します。
走行の長さおよび天候状態（湿度と温度）により、曇り具合は低下します。

曇り具合が低下しないとき

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトとオーバーヘッドコントロールユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

電球の交換

重要な安全上の注意

キセノンライト

⚠ **危険**

キセノンバルブには高電圧が発生しています。 キセノンバルブの電気端子に触れると、感電して、重大な傷害または致命傷を負うおそれがあります。 そのため、キセノンバルブのカバーを取り外さないでください。

キセノンバルブはご自身で交換せず、資格のある工場で交換してください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

LED ライト

キセノンバルブも LED 電球も交換することはできません。LED 電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

その他の電球の取り扱い

⚠ **警告**

電球とライトは非常に熱くなります。そのため、これらの交換を行なう前に冷ましてください。 触れると火傷をするおそれがあります。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。 電球を壊すなどして、子供がけがをするおそれがあります。

落下した電球を使用しないでください。電球が破裂してけがをすることがあります。
ハロゲンバルブには圧力がかかっているため、特に高温になっているときは交換するときに破裂するおそれがあります。交換するときは保護メガネや手袋を着用してください。

キセノンおよび LED 電球以外にも交換できない電球があります。リストに記載されている電球のみを交換してください (▷ 115 ページ)。 お客様自身で交換できない電球については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の補助が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

新しい電球のガラス管には素手で触れないようにしてください。 少しの汚れでもガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。 電球を取り付けるときは常に、柔らかい布を使用するか、バルブ底部にのみ触れるようにしてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球も点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

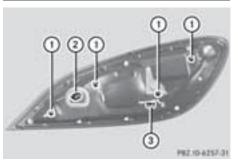
バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球の交換 / 種類の概要

以下の電球を交換できます。 電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

テールランプ
① バックランプ：W 16 W

リアライトの電球交換

バックランプ

ライトクラスター

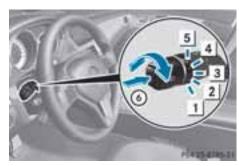
- ライトを消灯します。
- トランクを開きます。
- サイドパネルに手を伸ばし、ライトクラスターに簡単にアクセスできるまで下方に引きます。
- コネクター ② のツメを押し、コネクター ② を引き出します。
- 適切な工具を使用して緩め、4 つのナット ① を取り外します。
- ライトクラスター全体を取り外します。
- ソケット ③ を反時計回りにまわして引き抜きます。
- 電球を引き出します。

- 新しい電球をソケット ③に差し込みます。
- ソケット ③ をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ライトクラスターを再度差し込みます。
- 4 つのナット ① を締めます。
- 固定されるまでコネクター ② を押し込みます。
- サイドパネルを差し込みます。

フロントワイパー

フロントワイパーのオン / オフ

⚠ **警告**

ワイパーブレードが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。ワイパーブレードは春季と秋季に 1 回ずつ交換してください。

コンビネーションスイッチ

1 [0] ワイパー停止

2 [•••] 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）

3 [••••] 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）

4 [—] 低速作動モード

5 [═] 高速作動モード

⑥ [ワイパー記号] 一回のワイパー作動/ [ウォッシャー記号] ウォッシャー液を使用してワイパーを作動させる

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ワイパースイッチを作動の位置のままにしていると、ワイパーアームが不意に作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! ワイパーアームを起こしているときは絶対にボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードが取り付けられていない状態では絶対にワイパーアームをフロントウインドウの元の位置に戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持って作業をしてください。 ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ウインドウに当たってウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

ワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を 0 にします。

▶ ワイパーアームをウインドウから起こします。

▶ 解除ノブ ① をしっかりと押し、ワイパーブレードをワイパーアームから矢印の方向に引き上げます。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、矢印と反対の方向にスライドさせて、ワイパーアームの固定部に差し込みます。
ワイパーブレードを音が聞こえるまでかみ合わせます。

▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。

▶ ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

フロントワイパーの故障

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

⚠ **警告**
以下のページで推奨されている設定に注意してください。停止したままにすると、ウインドウがくもりやすくなります。視界が妨げられて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

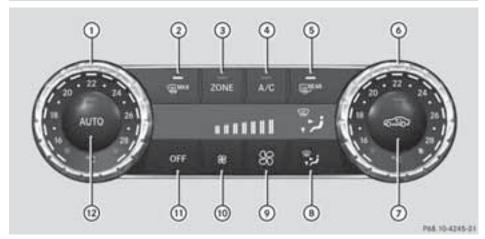
エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

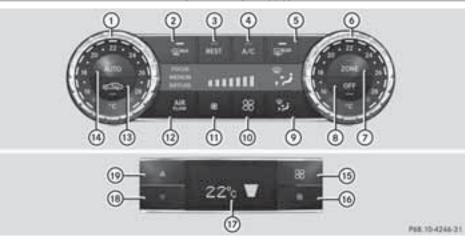
エアコンディショナーは、エンジンが作動中の場合のみ使用可能です。 システムは、サイドウインドウとルーフが閉じている場合のみ、適切に機能します。

余熱ヒーター機能は、エンジンが停止している場合のみ作動または解除することができます。 デジタル版取扱説明書をご覧ください。キーワードは"余熱ヒーター" です。

ℹ 暖かい気候の間は、例えば、"コンビニエンスオープニング"機能で少しの間車両を換気します。キーワード"コンビニエンスオープニング" でデジタル版取扱説明書をご覧ください。これにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

ℹ 内蔵フィルターは、ほこりの大部分の粒子をろ過し、花粉を完全にろ過することができます。 詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。 このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔を必ず遵守してください。 重度の大気汚染のような環境の状況によるので、間隔は整備手帳に記述されているよりも短くなることがあります。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）の操作パネル

① 温度の設定、左
② フロントウインドウの曇り取り
③ ZONE 機能のオン / オフ
④ AC モードのオン / オフ
⑤ リアデフォッガーのオン / オフの切り替え
⑥ 温度の設定、右
⑦ 内気循環モードの作動/解除
⑧ 送風口の設定
⑨ 送風量を上げる
⑩ 送風量を下げる
⑪ エアコンディショナーのオン / オフ
⑫ エアコンディショナーを AUTO モードに設定する

オートエアコンディショナー（3 ゾーン）の操作パネル

フロント操作パネル

① 温度の設定、左
② フロントウインドウの曇り取り
③ 余熱ヒーターベンチレーションのオン / オフ
④ AC モードのオン / オフ
⑤ リアデフォッガーのオン / オフの切り替え
⑥ 温度の設定、右
⑦ ZONE 機能のオン / オフ
⑧ エアコンディショナーのオン / オフ
⑨ 送風口の設定
⑩ 送風量を上げる
⑪ 送風量を下げる
⑫ エアコンモードの設定
⑬ 内気循環モードの作動/解除
⑭ エアコンディショナーを AUTO モードに設定する

リア操作パネル

⑮ 送風量を上げる
⑯ 送風量を下げる
⑰ ディスプレイ

⑱ 温度を下げる
⑲ 温度を上げる

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- エアコンディショナーのオン / オフ
- AC モードのオン / オフ
- エアコンディショナーを AUTO モードに設定する
- エアコンモードの設定
- 温度の設定
- 送風口の設定
- 送風量の設定
- 独立温度設定機能のオン / オフ
- ウインドウデフロスター
- デフロスターモード
- リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
- 内気循環モードの作動 / 解除
- 余熱ヒーターベンチレーションのオン / オフ
- 送風口の調整

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

慣らし運転

重要な安全上の注意

交換された新しいブレーキパッド/ブレーキパッドおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ性能を発揮します。 ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の約 1,500 km まで

最初に十分な注意を払ってエンジンを取り扱えば、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500 km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- アクセルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の ⅔ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- エンジンブレーキをかけるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 走行中にアクセルペダルを限界以上にいっぱいまで踏み込むこと（キックダウン）は避けてください。
- シフトポジション **3**、**2** または **1** は、山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

約 1,500 km 後は、最大荷重およびエンジン回転数まで車両を徐々に加速することができます。

AMG 車の慣らし運転に関する注意事項

- 最初の約 1,500 km までは、走行速度が 140 km/h を超えないようにしてください。
- エンジン回転数が約 4,500 rpm を超えた状態は短時間にしてください。

ℹ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

リアディファレンシャルロック装備車（AMG）

車両には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。 リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、新車時から約 3000 km の慣らし運転後を目安にオイルを交換してください。 このオイル交換を行なうことにより、より長い期間ディファレンシャルを正常な状態に保つことができます。 オイル交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路

の安全性が脅かされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着します。固定していないフロアマットを使用しないでください。

⚠ **警告**

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全然できません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- ホールド機能の損失

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

キー

0 キーを差し込む / 抜く位置

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

ℹ キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできます。 しかし、イグニッショ

ンはオンになりません。 エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

- キーは、以下のものと一緒に持ち運ばないでください。
  - 携帯電話や別のリモコンキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属フィルムなどの金属類
- キーレスゴーキーを金属製の物たとえば金属製のケースに入れないでください。

  キーレスゴーの機能に障害が生じるおそれがあります。

キーレスゴースイッチ装備車には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着式のキーレスゴースイッチが付いています。

キーレスゴーで操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを差し込む必要があります。

キーレスゴースイッチを押すたびに、イグニッション位置が切り替わります。 イグニッション位置の選択は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で行ないます。

ブレーキペダルを踏んだ状態でキーレスゴースイッチを押すと、ただちにエンジンが始動します。

キーレスゴースイッチのキーの位置

電源供給をオンにする

▶ ポジション **0**： キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、

エンジンスイッチからキーが抜かれていることに相当します。

▶ ポジション **1**： キーレスゴースイッチ ① を押します。

電源供給がオンになります。 これで例えばワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

ℹ この位置のときに運転席ドアを開くと、電源供給が停止します。

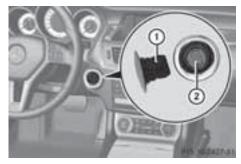
イグニッションをオンにする

▶ ポジション **2**（イグニッション）：キーレスゴースイッチ ① を 2 度押します。

イグニッションがオンになります。

ℹ 次の場合、エンジンスイッチがオフになります:

- 運転席ドアが開けられたとき
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で 1 度押したとき

キーレスゴースイッチの取り外し

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、通常の方法でエンジンを始動することができます。

ℹ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。

ℹ キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ②に差し込むと、システムは認識に約 2 秒間かかります。 その後、キーレスゴースイッチ ①を使用することができます。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

排気システム、または熱くなっているエンジンの部品に接触すると、環境の影響または動物によってもたらされた可燃性の素材が発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

全体的な注意事項

ℹ 触媒は、冷間始動後、約 30 秒間、予熱されます。 この間、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ シフトポジションを **P** にしてください。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション **P** が表示されます。

ℹ シフトポジションが **N** のときも、エンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

ℹ キーレスゴー操作でなく、キーを使用してエンジンを始動するには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ エンジンスイッチのキーをポジション **3** にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します (▷ 127 ページ)。

キーレスゴースイッチ操作によるエンジンの始動

⚠ 警告

キーレスゴースイッチを使用して、簡単にエンジンを始動できます。 キーレスゴー操作により車が発進すると思わぬけがの原因となりますので、決して子供だけを車内に残さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込まなくても、キーレスゴースイッチを押して手動でエンジンを始動することもできます。 キーレスゴーで操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを差し込む必要があります。 エンジンを始動するこのモードは、ECO スタート/ストップの自動エンジンスタート機能と独立して作動します。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
▶ キーレスゴースイッチ (▷ 128 ページ) を 1 回押します。
エンジンが始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告
エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。
トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
▶ トランスミッションをシフトポジション D または R にします。
▶ パーキングブレーキを解除します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。

ℹ セレクターレバーを P から動かすためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。 その後にのみ、パーキングロックが解除されます。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。 ドアのロックノブが下がります。
ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。
また、車速感応ドアロックを解除することもできます。 (▷ 166 ページ)

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。 これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告
しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを利かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。
従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約 1 秒間停止します。
▶ 発進します。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 平坦な道路または下り坂で発進するとき
- シフトポジションを N にしたとき
- パーキングブレーキをきかせているとき
- ESP®が故障しているとき

ECO スタート / ストップ機能

デジタル版取扱説明書には、全体的な注意事項と情報が記載されています。

- ECO スタート/ストップ機能を作動解除/作動させる
- 自動エンジン停止/エンジン始動

走行装備

エンジンの故障

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

オートマチックトランスミッション

セレクターレバー

シフトポジションの概要

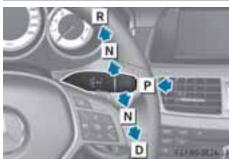
AMG 車の P スイッチ付きセレクターレバー

P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバースギア
N ニュートラル
D ドライブ

シフトポジションと走行モード表示

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバースギア
N ニュートラル
D ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

ℹ DIRECT SELECT レバーから手を放すと、自動的に中立の位置に戻ります。選択されているシフトポジション **P**、**R**、 **N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 (▷ 131 ページ) に表示されます。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シフトポジションと走行モード表示
- パーキングポジション P の選択
- リバースギア R の選択
- ニュートラル N（ECO スタート / ストップ機能が作動した状態）
- ニュートラル（N）の選択
- ECO スタート/ストップ機能が作動した状態でのドライブポジション D
- ドライブポジション D の選択

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 重要な安全上の注意
- シフトポジション
- ギアの変速
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングのギア変速パドル
- オートマチック走行モード
- シフトレンジ
- マニュアルギアシフト
- トランスミッションの問題

給油

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃料は可燃性の強い物質です。燃料を取り扱う時は、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、必ずエンジンを停止してください。

⚠ **警告**

皮膚や衣服に燃料が付着しないように注意してください。

燃料が皮膚に付着したり、気化した燃料を吸い込んだりすると、健康を害するおそれがあります。

! ガソリンエンジン車には、絶対に軽油を給油しないでください。軽油が少量混入しただけでも、 燃料供給システムを損傷するおそれがあります。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。 誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。 誤って指定以外の燃料を給油した場合は、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取る必要があるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料および燃料のグレードについてのさらなる情報は、"燃料" (▷ 273 ページ)をご覧ください。

セルフ式のガソリンスタンド

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

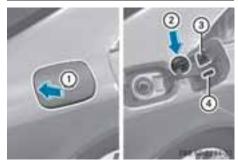
- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- 給油作業を行なう人は、身体の静電気を除去するため、給油前に車体などの金属に触れてください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり火傷をするおそれがあります。 火災の危険性があります。
- 給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。

- キャップの開閉は確実に行なってください。 火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。 燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。 燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

燃料給油フラップの開閉

① 燃料給油フラップを開く

② キャップをはめる

③ タイヤ空気圧ラベル

④ 使用燃料表示

キーまたはキーレスゴーで車を施錠 / 解錠すると、燃料給油フラップも自動的に施錠 / 解錠されます。

燃料給油フラップは車両の右側後方にあります。

メーターパネル内には、キャップの位置を示す ⛽ が表示されています。 給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

給油の開始

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ キーレスゴー：運転席ドアを開きます。
キーの位置 0： "キーを抜いた"状態と同じになります。
運転席ドアを再び閉じることができます。

▶ 燃料給油フラップ ①の矢印の位置を押します。
燃料給油フラップが少し開きます。

▶ 燃料給油フラップを完全に開きます。

▶ 燃料給油フラップを反時計回りにまわして取り外します。

▶ 燃料給油キャップを燃料給油フラップ②の裏側にあるブラケットに差し込みます。

▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。

▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

ℹ 最初にポンプが補充を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。 燃料が漏れ出すことがあります。

閉じる

▶ 補充口にキャップを再度置き、音がして固定されるまで時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップを閉じます。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。 さもなければ、セントラルロックシステムのロックピンが燃料給油フラップが閉じるのを妨げます。

燃料給油口の非常時の解錠

▶ トランクリッドを開きます。

- ラゲッジネットを下げます。
- 右側のサイドトリムパネルを開きます。
- 救急セットを取り外します。(▷ 230 ページ)
- エマージェンシーリリースをフック ① から外します。
- エマージェンシーリリースを矢印②の方向に引きます。
  燃料給油フラップが解錠されます。
- 燃料給油フラップを開きます。

燃料および燃料タンクの不具合

このセクションでは、安全性に関わる不具合の内容と対応方法について説明しています。 詳しい不具合内容および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	⚠ 火災や爆発のおそれがあります。 燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわし、ただちに抜いてください。(▷ 127 ページ). ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

葉、草または小枝のような可燃性の素材が熱くなった排気システムの部品にさらされて長く接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

可燃性の素材が熱い車両の部品に接触しないように車両を駐車します。乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないように特に注意してください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全然できません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

保護者のいない子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

! 動いている車両によって、車両の損傷、または駆動系の損傷につながるおそれがあります。

駐車時に車が不意に動き出さないように、以下の方法で車を確実に固定してください。

- パーキングブレーキを確実にかけてください。
- トランスミッションをポジション P にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません。

エンジンの停止

デジタル版取扱説明書の情報

オートマチックトランスミッション装備車でエンジンをオフにする方法に関する記載は、デジタル版取扱説明書にあります。

パーキングブレーキ

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

駐車

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

運転のヒント

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 一般的な運転のヒント
- ECO インジケーター
- ブレーキ警告灯
  - 重要な安全上の注意
  - 下り坂の傾斜
  - 高負荷 / 低負荷
  - 濡れた路面
  - 凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限
  - 新品のブレーキパッド / ライニング
  - AMG セラミック強化ブレーキシステム
- 濡れた路面の走行
- 寒冷時の走行
  - 重要な安全上の注意
  - サマータイヤでの走行
  - 滑りやすい路面

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ **警告**

クルーズコントロールは道路や交通事情を考慮することはできません。

クルーズコントロールが作動していても常に交通状況に注意を払うようにしてください。

クルーズコントロールは運転中に運転者を補助するためだけに設計されたものです。車両の速度に注意して、適切に減速する責任があります。

⚠ **警告**

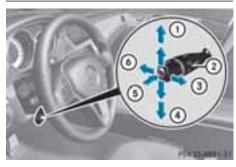
次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑してる交通やカーブしている道路）。事故の原因になるおそれがあります。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に荷物を積んでいるときは、状況に応じてシフトレンジを **3**、**2**、**1** にします。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。約 30 km/h 以上の任意の速度を設定できます。

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する / 上げる
② LIM 表示灯
③ 現在の速度 / 前回の設定速度に設定する
④ 速度を設定する / 下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムの状態を表しています。

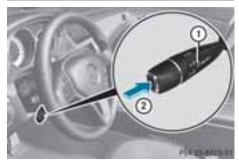
- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールが操作可能な状態です。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約５秒間表示されます。マルチファンクションディスプレイには、記憶された速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 作動条件
- 記憶、維持、速度の呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールの選択

▶ LIM 表示灯 ② が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 クルーズコントロールが選択されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

⚠ 警告
ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、ブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。 ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ 警告
滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ 警告
可変スピードリミッターは運転を補助するために設計されたものです。車両の速度に注意して、適切に減速する責任があります。

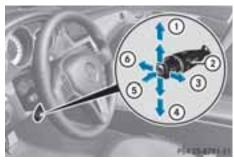
設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に荷物を積んでいるときは、状況に応じてシフトレンジを **3**、**2**、**1** にします。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変**スピードリミッターは市街地などでの速度制限のためのものです。
- **スノータイヤ**スピードリミッターは、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限ためのシステムです。 (▷ 141 ページ)

ℹ スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムの状態を表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

可変スピードリミッターの選択

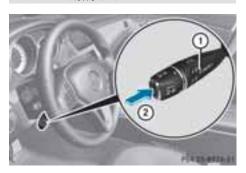
⚠ 警告

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

制限速度に設定された速度以上に加速する必要がない場合にのみ、可変スピードリミッターを使用してください。事故をおこすおそれがあります。

可変スピードリミッターを解除することによってのみ、記憶されている制限速度を超えて走行できます。

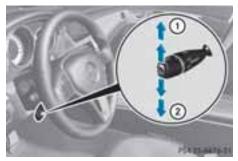
- クルーズコントロールレバーを使用してください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでください（キックダウン）。

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。

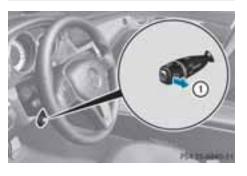
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。 可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。
現在の速度が記憶されマルチファンクションディスプレイに表示されます。
マルチファンクションディスプレイのセグメントは、記憶した速度から上の部分が点灯します。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

現在の走行速度を記憶する、記憶されている速度を呼び出す

> ⚠ 警告
> 記憶されている速度への設定は、速度を記憶していて、現在の交通状況や走行状態に適しているときにのみ行なってください。急減速によって、事故を起こすおそれがあります。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

速度の設定

▶ **設定速度を約 10 km/h 単位で調整する：**設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ④ にいっぱいまで操作します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまでクルーズコントロールレバーを圧力点を越えて保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

▶ **設定速度を約 1 km/h 単位で調整する：** 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に軽く操作します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまでクルーズコントロールレバーを圧力点まで押して保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

可変スピードリミッターの解除

> ⚠ 警告
> ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

走行装備

可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

アクセルペダルを圧力点を越えて踏むと(キックダウン)、現在の速度が保存した速度と約 20 km/h 以上異ならないときのみに、可変スピードリミッターは自動的に解除されます。 このときは警告音が鳴ります。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▷ 166 ページ)。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン)、記憶された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ **警告**

ディストロニックプラスは運転を補助するために設計されたものです。 運転者には、他の車両との距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。

ディストロニックプラスは特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニックプラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。ディストロニックプラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

ディストロニックプラスは道路や交通状況を考慮することはできません。ディストロニックプラスが先行車を認識しない、または認識しなくなった場合には、ディストロニックを作動させない、または既に作動させているときは解除してください。特に以下の場合です。

- カーブの前
- 狭まった車線

- 流れの速い車線に変更する場合
- 複雑な運転状況、または高速道路での工事など、車線が迂回している場合

ディストロニックプラスは現在設定されている速度を維持するか、設定した速度まで加速します。

ディストロニックプラスは天候条件を考慮することはできません。以下のときは、ディストロニックプラスを解除するか、または作動させないでください。

- 道路が滑りやすいとき、雪で覆われているとき、または凍結しているとき。ブレーキを効かせたときや加速したときに車輪がグリップを失うことがあります。車両が滑り始めるおそれがあります。
- センサーが汚れていたり、雪、または雨、霧などで視界が悪いとき。距離の制御が損なわれることがあります。

ディストロニックプラスが作動していても、交通状況には常に注意してください。 危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニックプラスは、走行速度により、最大 4 m/s^2 の減速度でブレーキを効かせます。 これは車両の最大制動力の約 40 % に相当します。 この制動力が不十分なときは、ブレーキの操作を行なってください。

ディストロニックプラスが先行車との衝突の危険性を検知すると、断続的な警告音が鳴ります。 さらに、メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。 衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する補助を行ないます。 ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

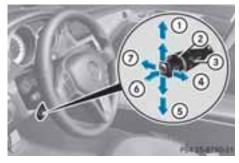
長い急な下り坂の勾配では、ギアレンジ **1**、**2** または **3** を適時選択しなければなりません。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

ディストロニック・プラスが前方に速度の遅い車両を検知すると、事前に設定された先行車のと距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます。

ディストロニック・プラスの補助を行なう場合は、レーダーセンサーシステムを作動させ (▷ 166 ページ)、操作可能な状態にする必要があります。

前方に車両がいない場合は、ディストロニック・プラスは、30 km/h から 200 km/h の速度範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。 前を走行している車両がいる場合は、ディストロニックは約 0 km/h ～ 200 km/h の間の速度範囲で作動します。

急勾配の道路ではディストロニック・プラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する

② 指定最短距離を設定する

③ LIM 表示灯
④ 現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し
⑤ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスや可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムの状態を表しています。

- **LIM 表示灯 が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

ディストロニック・プラスの設定

重要な安全上の注意

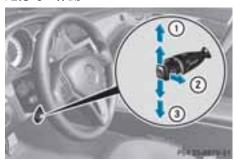
⚠ **警告**

ディストロニックプラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両を他の方法で動かす場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはディストロニックプラスを解除してください。

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっていること。 ディストロニック・プラスが使用できる前に最大 2 分間走行していること
- パーキングブレーキを解除している。
- ESP® を使用しているが機能が介入していない。
- トランスミッションがポジション D であること
- ボンネットは閉じていること
- P から D にシフトするときに運転席ドアが閉じていること、または運転者のシートベルトが装着されていること
- 助手席ドアとリアドアが閉じていること
- 車両が滑っていないこと

走行時の作動

▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ② か、上 ① または下 ③ に押します。
ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ③。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
希望の記憶した速度までのみ、先行車の速度に自車の速度が合わせられます。

30 km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車両が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示されている場合にのみディストロニック・プラスを作動させることができます。 先行車両が検知および表示されなくなると、ディストロニック・プラスが解除され、音が鳴ります。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス制御待機中というメッセージが表示されます。 このときは、ゆっくり走行している先行車との設定距離は維持されません。 アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止車両に向かって走行しているときの作動

▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ② か、上 ① または下 ③ に押します。
ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを繰り返し押し上げるか ① 押し下げます ③。

自車の先行車が停止している場合は、自車が同様に停止したときにのみディストロニック・プラスを作動させることができます。

ℹ 30 km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。 そのためには、メーターパネルのディストロニック・プラスの距離表示を作動させなければなりません (▷ 166 ページ)。

ℹ クルーズコントロールレバーを操作して希望の速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのコントローラーを操作して規定最小距離を設定することができます。 (▷ 146 ページ)

発進と走行

⚠ **警告**

ブレーキを踏んだとき、自車が停止していないときはディストロニックプラスは解除されます。この後は、ディストロニックプラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、ブレーキのみで先行車との距離を調整してください。事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。 運転者には、他の車両と車間距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。

▶ **先行車が発進した場合は、** ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ② か、上 ① または下 ③ に押します。

または

▶ 軽く加速します。
自車が発進して、速度を先行車の速度に合わせます。

先行車がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じ方法で作動します。

先行車が減速したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両にブレーキを効かせます。 このようにして選択された距離が維持されます。

ディストロニック・プラスは、先行車が速度を上げたことを検知すると設定速度まで車両を加速します。

車線の変更

⚠ **警告**

ディストロニックプラスとアクティブブラインドスポットアシストは運転を補助するためにのみ設計されたものです。

これらは、運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。 運転者には、他の車両と車間距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

追い越し車線に移るときは、以下の条件でディストロニック・プラスが運転者をサポートします。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持しているとき
- 該当する方向指示灯を点滅させているとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知しないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。 車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が狭すぎるときは、加速は中断されます。

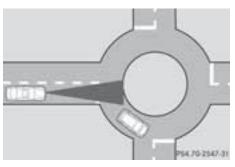
ℹ 車線変更を行なうとき、ディストロニック・プラスは左ハンドル車では左側の車線、右ハンドル車では右側の車線をモニターします

COMAND システムを装備した車両

ℹ 以下の機能はすべての国で操作可能なわけではありません。

特定の交通状況に適切に対応できるようにディストロニック・プラスはナビゲーションシステムからの追加情報を使用します。 車両に追従しているときに、ディストロニック・プラスが作動していて、以下のような場合がこれにあたります。

- ロータリーに接近しているときや走行しているとき
- T 字路に接近しているとき
- 高速道路の出口で分岐するとき

先行車が検知範囲から出てしまった場合でも、ディストロニック・プラスは一時的にそのときの走行速度を維持し、加速はしません。 これは、ナビゲーションシステムのそのときの地図データに基づいています。

例：ロータリー

以下のときは、そのときの速度が維持されます。

- ロータリー / T 字路の前約 10 秒間、およびロータリーを走行しているときの約 1.5 秒間
- 高速道路出口に達する前の約 12 秒間、および高速道路出口の後約 4 秒間

その後、車両は指定した設定速度に戻るために加速します。

停止

⚠ 警告

ディストロニック・プラスが作動しているときは車両から降りないでください。

ディストロニック・プラスは同乗者によって、または車外から操作したり、作動または解除しないでください。

ディストロニック・プラスはパーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニック・プラスのブレーキ作用が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニック・プラスが解除されたとき
- 加速したとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき

- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニック・プラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

ℹ 指定した最短距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。 指定最短距離はクルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときに以下のような条件になると、シフトポジションは自動的に **P** になります。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになったのでない場合、エンジンがオフになっている
- ボンネットを開いたとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定最短距離の設定
- メーターパネルのディストロニックプラス表示

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合はブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。 クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに ディストロニック・プラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止するまで、最後に記憶された速度がそのまま記憶されます。

以下のときはディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき
- 約 25 km/h 以下で走行中で先行車両がいないとき、または先行車両が検知されなくなったとき
- ESP®が作動したときや ESP®の機能を解除したとき
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにあるとき

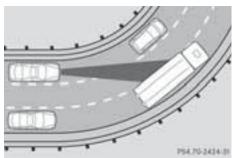
- 車両が電波望遠鏡施設近辺にあるとき(▷ 277 ページ)
- レーダーセンサーシステムを停止したとき(▷ 166 ページ)
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを手前に引き、助手席ドア、またはリアドアのどちらかが開いているとき
- 車両が滑ったとき

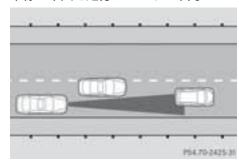
ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。 マルチファンクションディスプレイに ディストロニック・プラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

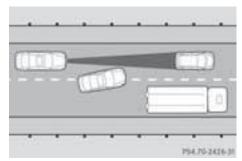
ディストロニック・プラス使用時の運転のヒント

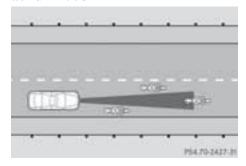
全体的な注意事項

以下には、特に注意すべき道路や交通状況の記載が含まれています。 そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。 ディストロニック・プラスは解除されます。

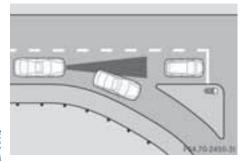
カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。 予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両

ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。 先行車との距離は非常に短くなります。

車線変更する他の車両

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。 この車両との距離は非常に短くなります。

幅の狭い車両

ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがありま

す。 先行車との距離は非常に短くなります。

障害物や停止車両

ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。 例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両

ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。 交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 車両が停止状態にあるとき
- エンジンがかかっている、またはエンジンを ECO スタート/ストップ機能によって自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- パーキングブレーキを解除しているとき
- ボンネットが閉じているとき
- トランスミッションがポジション D、R、N のとき
- ディストロニック・プラスが解除されます。

ホールド機能を作動させる

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。そのため、車両が他の方法で動かされている場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはホールド機能を解除してください。

▶ 作動条件が合っていることを確認します。
▶ ブレーキペダルを踏んでください。
▶ マルチファンクションディスプレイに HOLD が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。 ブレーキペダルから足を放すことができます。

ⓘ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときには車両から降りないでください。

ホールド機能は車外から、または同乗者が操作したり解除したりしないでください。

ホールド機能はパーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ホールド機能のブレーキ作用が停止して、車両が動き出します。

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んでホールド機能を解除したとき
- システムの誤作動やバッテリー上がりのように電力供給が遮断されたとき
- エンジンルームの電気装備や、バッテリーもしくはヒューズなどが変更されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するような場合には、ホールド機能を解除し、車両が動き出さないようにしてください。

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- 加速したとき、およびトランスミッションがシフトポジション D または R のとき
- トランスミッションをシフトポジション P にシフトしたとき
- マルチファンクションディスプレイの HOLD が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- ディストロニック・プラスを作動したとき

ホールド機能が作動しているときに以下のような条件になると、シフトポジションは自動的に P になります。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになったのでない場合、エンジンがオフになっている
- ボンネットを開いたとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

レーススタート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

レーススタートはスポーツハンドリングモードのときにのみ使用できます。 スポーツハンドリングモードは車両が横滑りし始めたりタイヤが空転し始めた場合、限られた程度までしか車両を安定させることができません。そのため、許容値範囲で車両をコントロールするのが難しくなります。車両をコントロールできなくなり、事故を起こすおそれがあります。

レーススタートはサーキットなどのクローズドコースでのみ使用してください。

常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。

ⓘ レーススタート機能は AMG モデルにのみ適用されます。

レーススタートは停車状態から最適な加速力で発進できる機能です。 この前提条件は、路面状況のグリップ力が高い場合です。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 作動条件
- レーススタートを使用する

AIR マティックサスペンション

車高

重要な安全上の注意

⚠ 警告

"コンフォートモード"を選択した場合、エンジンを停止してから約 60 秒 以内に車両を施錠すると、車高が下がります。 そのため、車両を施錠する場合には、ホイールハウスの近くや車両の下に誰もいないことを確認してください。 身体が挟まれるおそれがあります。

! 以下の場合に、車高が約 15 mm 下がります:

- "コンフォートモード"を選択したとき
- エンジンを停止したとき
- 約 60 秒 以内に車両を施錠したとき

駐車するときは、車高が下がって縁石に接触しないように車両の位置を確認してください。 車両が損傷するおそれがあります。

車高を自動的に調整します。 レベルコントロール機能は、サスペンションを最適にして、荷物搭載時でも地上高を一定に保ちます。 車高に関する詳しい情報はデジタル取扱説明書に収録されています。

車高を設定する

⚠ 警告

停止状態で車両を低くする場合には、ホイールハウスの近くや車両の下に誰もいないことを確認してください。身体が挟まれるおそれがあります。

通常の路面では"標準"設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは"高い"を選択してください。 選択内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても保持されたままになります。

高い車高に調整する

▶ エンジンを始動してください。

表示灯 ② が点灯しないとき

▶ スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が点灯します。 車高が高い車高に調整されます。
  ディスプレイに車高があがります というメッセージが表示されます。

"高い車高"の設定は以下のときに解除されます。

- 約 120 km/h を超えて走行したとき
- 80 km/h 以上の速度で約 3 分間走行したとき

これらの速度域を超えずに走行したときは、"高い車高"が保たれます。

標準の車高に調整する

▶ エンジンを始動してください。

表示灯 ② が点灯するとき

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が消灯します。 車高が標準の車高に調整されます。

サスペンション制御

全体的な注意事項

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 車高
- サスペンション制御

4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）

⚠ **警告**

4MATIC は無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する場合:

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行時に駆動輪が空転した場合、アクセルペダルを緩めてください。
- 路面や周囲の交通状況に合わせて運転スタイルを調整してください。

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

ℹ 冬に走行するときには、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ)や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

4MATIC は 4 輪全てが常に駆動しています。 不十分な接地力によって車輪が空転したときは、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）によって車両の駆動力が改善されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

パークトロニックは補助のみを行なうものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車や移動を行なうときは近辺への注意を払い続けてください。 運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

周囲に人や動物がいないことを確認してください。 確認を怠ると、人や動物が負傷するおそれがあります。

パークトロニックは超音波センサーによる電子式駐車補助です。 車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは以下のようなときに自動的に作動します。

- エンジンスイッチを 2 の位置にしたとき
- トランスミッションをポジション D、R または N にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき

パークトロニックは約 18 km/h 以上の速度で解除されます。 それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの感知範囲

全体的な注意事項

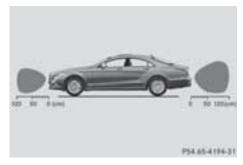
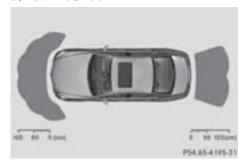
! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを感知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

① 例：左側フロントバンパーのセンサー

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。 適切に機能しないことがあります。 センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 227 ページ)

例：横から見た図

例：上から見た図

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最小範囲

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。 最短感知距離以下になると、警告灯が表示されなくなることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 警告灯
- パークトロニックの解除 / 作動
- パークトロニックの不具合

パーキングアシストリアビューカメラ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

周囲に人や動物がいないことを確認してください。 確認を怠ると、人や動物が負傷するおそれがあります。

全体的な注意事項

パーキングアシストリアビューカメラ ① は視覚的に運転者を支援するシステムです。 COMAND ディスプレイに車両後方のエリアを表示します。

パーキングアシストリアビューカメラ ① はテールゲートのハンドルグリップにあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- カメラによる視界
- パーキングアシストリアビューカメラを作動させる
- COMAND ディスプレイのガイドライン

アテンションアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

アテンションアシストはあくまでも運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や集中力低下を認識するのが遅れたり、まったく認識しないこともあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により危険な状況の認知が非常に遅れたり、また状況の判断を誤ったり反応が遅れることがあります。運転する前や運転中は疲れていないことを確認してください。特に運転時間が長くなるような場合には、適切な時間に定期的に休憩を取ってください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人が負傷するおそれがあります。

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を補助しま

す。 80 km/h から 180 km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などのお客様の運転スタイル
- 時間や走行の長さなどの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 主に 80 km/h 以下や 180 km/h 以上の速度で運転しているとき
- COMAND システムを操作しているときやその機能で電話しているとき
- 時刻が正しく設定されていないとき
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ナイトビューアシストプラス

重要な安全上の注意

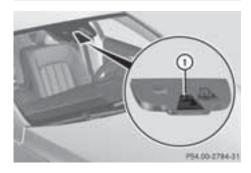
⚠ **警告**

ナイトビューアシストプラスは運転者を補助するためのものであり、運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。ナイトビューアシストプラスに頼るのではなく、フロントウインドウを通して前方に注意してください。運転者には安全に対する責任があり、周囲の交通状況に応じて運転をしなければなりません。運転者や他の人にけがをさせるおそれがあります。

以下のときはシステムに影響を与えたり、正しく作動しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、カメラ付近にステッカーなどが貼ってあるとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

⚠ **警告**

ナイトビューアシストプラスは車両のすぐ近くにある障害物を感知することはできません。車を移動するときはフロントウインドウを通して前方に注意してください。車を移動するときは周囲に人や動物がいないことを確認してください。

通常のヘッドライトからの光に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して道路を照らします。 ナイトビュー

アシストプラスのカメラ ① は、赤外線を検知して COMAND ディスプレイに白黒の映像として表示します。COMAND ディスプレイには、ハイビームヘッドライトで映し出される路面と同じ映像が表示されます。 道路の進行方向や障害物を確認することができます。 歩行者検知機能が作動しているときは、システムで認識された歩行者がナイトビューアシストプラスのディスプレイに強調表示されます。

対向車のヘッドライトの光はマルチファンクションディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスディスプレイに影響を与えることはありません。 対向車がいるために、メインビームヘッドライトをオンにできないときも同様です。

ℹ 赤外線は人の目に見えないため、眩しくなることはありません。 対向車があっても、ナイトビューアシストプラスは作動させたままにできます。

ナイトビューアシストプラスを作動させる

作動条件

ナイトビューアシストプラスは以下のときに作動させることができます。

- エンジンスイッチのキーが 2 の位置のとき
- 周囲が暗いとき
- ライトスイッチが AUTO または ≣D のとき
- リバースギアになっていないとき

ナイトビューアシストプラスを作動させる

▶ COMAND システムがオンになっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにナイトビューアシストプラスのディスプレイが表示されます。

COMAND ディスプレイの照度の調整方法については、COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

ℹ 赤外線照射ヘッドライトは走行速度が約 10 km/h 以上になると赤外線を照射します。 停止中は目に見えません。また、ナイトビューアシストプラスの作動状態を確認することはできません。

歩行者検知機能

⚠ 警告

以下のような状況下では歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などの障害物で隠れているとき
- ナイトビューアシストプラスのディスプレイに表示される歩行者の輪郭が強い光の反射などで不完全になったり途切れているとき

- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき

① ナイトビューアシストプラスの映像
② 検知された歩行者
③ フレーム
④ 歩行者検知のマーク

ℹ 歩行者検知機能では動物を検知することはできません。

ナイトビューアシストプラスは人の輪郭などの特徴により歩行者を認識します。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 走行速度が約 10 km/h 以上のとき
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が暗いとき

歩行者検知機能の作動中は、マーク ④ が表示されます。 歩行者が検知されると、歩行者はフレーム ③ で囲まれ、強調されます。 歩行者検知システムが歩行者を検知したときは、状況を確認するためにフロントウインドウ越しに前方を見てください。 ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

歩行者と同じような特徴のある障害物の可能性もあります。

フロントウインドウの曇りまたは汚れ

カメラの前のフロントウインドウの内側や外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスのディスプレイに影響します。

▶ **曇りを取る：** エアコンディショナーの設定を確認し(▷ 123 ページ)、カメラのカバーを開きます(▷ 227 ページ)。

▶ **フロントウインドウの内側の曇りを取る：** カメラのカバーを開いて(▷ 227 ページ) フロントウインドウを掃除します(▷ 227 ページ)。

ナイトビューアシストプラスの不具合

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

レーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

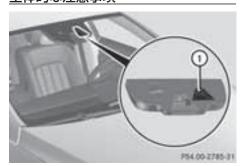
レーンキーピングアシストは車線内を自動的に走行させる機能ではありません。 運転者を支援する機能であり、道路の車線を正しく検知できなかったり、全く検知できないことがあります。

以下のときはシステムの作動に影響を与えたり、正しく作動しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向車線の車や太陽光線、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき

- ひとつの車線にいくつも車線ラインがあったり、全くないとき
- 車線ラインが薄くなっているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線ラインが検知できないとき
- 工事区間など車線ラインがあいまいなとき
- 車線の分岐点や他の車線との合流地点など車線ラインが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

レーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知できません。運転者の代わりに運転操作を行なうことはできません。走行速度に注意して、的確な減速を行ない、正しいステアリング操作を行なってください。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。 常に交通状況や周囲の状況に注意してください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項

レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ①で車両前方をモニターします。 レーンキーピングアシストは路面の車線ラインを検知し、車線を外れそうになる前に運転者に警告を行ないます。

マルチファンクションディスプレイで 表示単位 速度/距離の km を選択すると (▷ 166 ページ)、レーンキーピングアシストが約 60 km/h の速度で作動を開始します。 約 miles 表示が選択されているときは、走行速度が約 40 mph 以上になるとアシスト機能が作動開始します。

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。 警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストの作動

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージはディストロニック・プラス (▷ 141 ページ) と、アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 158 ページ)、アクティブレーンキーピングアシスト (▷ 161 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは補助のみを行なうものであり、車両/障害物を正しく、またはまったく検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- リアあるいはフロントセンサーが汚れているとき

▷▷

アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。至近距離で追い越して死角に入った車両を検知することはできません。

アクティブブラインドスポットアシストは道路や交通状況は検知できません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、運転者後方の車両側方のエリアをモニターします。 ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。 さらに運転者が車線変更する側の方向指示灯を作動させると、音と光による警告を発します。 側方衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。 コース修正のためのブレーキの作動を支援するため、アクティブブラインドスポットアシストは前方レーダーセンサーシステムも使用します。 進行方向のスペースがモニターされます。

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を支援します。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の近辺では自動的に停止します (▷ 277 ページ)。

走行中の運転者へのアクティブブラインドスポットアシストの支援のために、レーダーセンサーシステムをオンにして、作動可能にしてください。(▷ 166 ページ)

モニター範囲

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づき通り過ぎていく車両は検知されません。視覚的、聴覚的な警告は発せられず、進路を修正するために、システムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため、特に車線の中央を走行していない場合は隣の車線の車両は検知されないことがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3.0 m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。 このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

車線が狭い場合は、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。 これは、車線の内側を走行している車両が存在する場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行している

ときに警告が間違って発せられることがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。 バンパーとラジエーターグリルのカバーに汚れや、氷、泥がないことを確認してください。 リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。 強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。 アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

① 黄色の表示灯/赤の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストが作動しているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30 km/h 以下の速度では黄色に点灯します。 30 km/h 以上の速度では、表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤に点灯します。 この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ると常に行なわれます。 車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。 アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

視覚と音声による衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、モニター範囲に車両が検知されると、視覚と音による衝突警告を発します。 その後、2 倍の速さの警告音が聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。

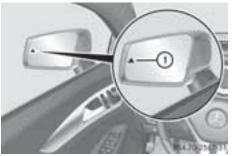
方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により表示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計されています。 注意を払った運転の代わりになるものではありません。 状況によっては、車線修正ブレーキの適用は衝突を防ぐためには不十分な場合があります。そのような場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作、アクセル操作をする必要があります。

非常にまれな場合、システムが間違って周辺にあるガードレール、または似たような車線の境界との衝突の危険を検知し、ブレーキをかけることがあります。アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。 ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、タイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方の衝突の危険性を検知すると、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。 これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

コース修正ブレーキが介入すると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅して、2 重の警告音が鳴ります。 さらに、図で表示したメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

以下のときは、ブレーキの介入がまったく行なわれないか、走行状況に合わせたコース修正ブレーキが作動します。

- 車両の両側に車両や障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なうとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全システムが介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- アクティブブラインドスポットアシストの作動
- トレーラーのけん引

アクティブレーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保つことはしません。 道路の車線マークを正しく検知できなかったり、全く検知できないことがあります。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向交通や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- ひとつの車線にいくつも車線ラインがあったり、全くないとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき

- 近くにある工事などで道路の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知できません。 注意を払った運転の代わりになるものではありません。 車両の速度、タイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。 常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項

アクティブレーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部にあるカメラ ① で車両前部をモニターします。 アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。 警告に反応しない場合は、ブレーキの車線修正を適用することにより車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの 表示単位 速度/距離(▷ 166 ページ) 機能を選択し、測定単位として km を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストが約 60 km/h 以上の速度で作動を開始します。 miles 表示が選択されているときは、走行速度が約 40 mph 以上になるとアシスト機能が作動開始します。

ステアリングの警告の振動

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。 警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

車線ラインを越えたとき、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

車線修正ブレーキの適用

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは車線内を自動的に走行させる機能ではありません。 運転を補助するためのみに設計されたものです。注意を払った運転の代わりになるものではありません。 状況によっては、車線修正ブレーキの適用は車両を元の車線に戻すには十分ではない場合があります。このような場合は、ご自身で車両のステアリング操作を行ない、車線を外れないようにしてください。

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。 他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。ごくまれに、不明瞭なマーク、または道路の特定の構造

物を立体的な車線マークとして認識することがあります。実線の車線マークの上を不意に走行した後などの不適切なブレーキの適用は、ステアリングを反対方向へ軽く操作することによって中断します。
アクティブレーンキーピングアシストは天候を考慮することはできません。
走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲の状況に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

車線修正ブレーキが適用される場合、マルチファンクションディスプレイにイラストが表示されます。

特定の状況で車線から外れた場合には、片側の車輪にブレーキが軽くかかります。 これは車両を元の車線に戻すのを補助するために設計されたものです。

車線修正ブレーキの適用は、実線の認識可能な車線マークの上を走行した後のみ行なわれます。 これ以前は、ステアリングの断続的な振動により警告が発せられます。 さらに、両側に車線マークのある車線を認識しなくてはなりません。 ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

ℹ 車両が元の車線に戻った後にのみ、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき
- 方向指示灯を作動させたとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 高い速度でカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- トランスミッションがシフトポジション D でないとき
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。 不適切なブレーキの適用は以下のときに、いつでも中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作したとき
- ターンシグナルを使用したとき
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なったとき

車線修正ブレーキの適用は以下のときに自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 車線マークが認識できなくなったとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- アクティブレーンキーピングアシストの作動
- トレーラーのけん引

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

道路状況および交通事情が許す限り、マルチファンクションディスプレイをご使用ください。注意力が散漫になり、運転に集中することができず、事故の原因になる可能性があります。

⚠ **警告**

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障している場合は、メッセージが表示されません。

その結果として、速度や外気温度、警告やインジケータランプ、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を得ることができなくなります。 車両の操縦性が損なわれるおそれがあります。 状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。そのため、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認する必要があります。安全確保ができていない車両を運転することは、事故の原因になりまる可能性があります。

⚠ **警告**

メインテナンス作業が適切に行なわれなかった場合は、車両の操作に関する安全性が損なわれている可能性があります。これにより車両がコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。さらに、安全装備が運転者または他の乗員を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

メーターパネルのイラストについては、(▷ 36 ページ)をご覧ください。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- エンジン冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度計

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 166 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個々のメニューについての詳しい情報が記載されています。

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- ﾄﾘｯﾌﾟ メニュー
- ﾅﾋﾞ メニュー（ナビゲーション案内）
- ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー
- TEL メニュー（電話）
- ｱｼｽﾄ メニュー（支援機能）
- ﾒﾝﾃﾅﾝｽ メニュー
- 設定 メニュー
- AMG メニュー（AMG 車）

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。 他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

エンジンスイッチをオフにすると、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 148 ページ) および駐車 (▷ 135 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押して、ディスプレイメッセージを非表示にします。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。 一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは特定のディスプレイメッセージを **メッセージメモリー**に保存します。 ディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメニューから メンテナンス を選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに メッセージ 2 のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、 メッセージ 2 を選択します。

▶ 押して OK 確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全装備

<table>
<tr><th>ディスプレイメッセージ</th><th>考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法</th></tr>
<tr><td>
現在 使用できません 取扱説明書を参照</td><td>ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。
アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。
メーターパネルの 、 、 警告灯も点灯している。
アテンションアシストの機能は解除されている。
考えられる原因
• セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。
• バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。
⚠ 警告
ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。
ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。
ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。
横滑りして事故が起きる危険が増える。
▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。
ディスプレイメッセージが消えないとき
▶ 注意して運転してください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td>
作動できません 取扱説明書を参照</td><td>故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。</td></tr>
</table>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
	アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [警告灯]、[警告灯]、[警告灯]、[警告灯] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 たとえば、セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していないと考えられる。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ブレーキ液レベル 点検して ください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

ディスプレイ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	PRE-SAFE®の重要な機能に異常がある。 エアバッグなどの他の乗員保護装置はすべて機能している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車：ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消えます。 PRE-SAFE® ブレーキが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーを清掃します(▷ 227 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 76 ページ)
プレセーフ 機能が 制限されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® ブレーキが故障のために機能していない。 BAS プラスまたは車間距離警告も故障した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員保護補助装置について詳しくは、(▷ 47 ページ)をご覧ください。
 フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 リア左側またはリア右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ウインドウバッグ故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグが故障している。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがあります。 けがの危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 135 ページ） ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消え、冷却水温度が約 120 ℃ 以下になるまではエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 通常の操作条件下で指定の冷却水量のときは、冷却水温度が約 120 ℃に上がることがあります。

タイヤ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 タイヤ空気圧が低すぎると、以下の危険が生じるおそれがあります。 • 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがあります。 • タイヤが過度に摩耗または偏摩耗し、タイヤの駆動力が損なわれるおそれがあります。 • ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 周囲の状況に注意しながら操作してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ パンクしているタイヤがある場合は、タイヤの点検を行なってください。(▷ 232 ページ) ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば適正な空気圧に調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▷ 254 ページ)

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
 左リア バックレスト ロックされていません または 右リア バックレスト ロックされていません	左右どちらかのリアバックレストが完全にロックされていない。 警告音も鳴った。 ▶ バックレストを後方に押して、確実にロックしてください。
 左フロント バックレスト ロックしてください または 右フロント バックレスト ロックしてください	運転席または助手席シートのバックレストがロックされていない。 警告音も鳴った。 ▶ バックレストを後方に押して、確実にロックしてください。
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性がある。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの警告灯 / 表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全装備

シートベルト

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
[シートベルト警告灯] フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 56 ページ) 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
[シートベルト警告灯] 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 56 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ⚠ 警告 ブレーキの性能が損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。 そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障すると、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなる可能性がある。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない状態になっている。 そのため、BAS、BAS プラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 事故の危険性があります。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。 警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	EBD が故障のために作動しない。 そのため、ABS、BAS、BAS プラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS と ESP® が故障のために作動しない。 そのため、BAS、BAS プラス、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 例外： (▷ 74 ページ)

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
ESP OFF 表示灯 エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP® の機能が解除されている。 ⚠ 警告 ESP® がオフになっている場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ ESP® を再び作動させてください。 例外：(▷ 74 ページ) ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® が作動しないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
SPORT AMG 車のみ： エンジンがかかっているときに黄色の ESP® スポーツ表示灯が点灯する。	スポーツモードになっている。 ⚠ 警告 スポーツモードがオンになっている場合、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ スポーツモードに切り替えるときは、"スポーツモードの設定 / 解除" のセクション(▷ 76 ページ)に記載されている条件に必ず従ってください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトの機能が作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 アテンションアシストの機能は解除されている。 セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。 乗員保護補助装置について詳しくは、(▷ 47 ページ)をご覧ください。

エンジン

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
[冷却水警告灯] エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120 ℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがあります。 けがの危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 223 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

走行装備

原因	考えられる原因および解決方法 ▶ 解決方法
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニック・プラスについて、詳しくは (▷ 141 ページ)をご覧ください。 PRE-SAFE® ブレーキについて、詳しくは (▷ 78 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ).

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。 詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

常に交通状況に注意してください。

道路や交通状況が許す場合のみ、COMAND システムや電話を使用してください。

50km/h の速度でも、車両は 1 秒間に約 14 m の距離を走行するということを念頭に置いてください。ナビゲーションシステムは、一時停止の標識や前方優先道路の標識、交通規則、道路の安全性についての情報を提供するものではありません。車両を運転している場合に、これらのことに注意を払うのは運転者の義務です。車両が停止している場合にのみ、新しい目的地を入力してください。

著作権の情報

全体的な注意事項

COMAND システムおよびその構成部品で使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスの情報は、ウェブサイトが公開されるとすぐにここ **http://www.mercedes-benz.com/opensource** でご覧になれます。

Macrovision

この製品には、米国の特許や他の知的所有権によって保護された著作権保護技術が取り込まれています。 この著作権保護技術の使用は Rovi Corporation の許可が必要であり、Rovi Corporation による許可がない場合には、家庭および他の制限された閲覧使用にのみ意図されています。 リバースエンジニアリングや分解は禁じられています。

libJPEG

このソフトウェアは Independent JPEG Group の製品に一部基づいています。

Free Type

本ソフトウェアの一部は © 2005The FreeType Project (www.freetype.org) の著作権です。 All rights reserved. © 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg.

NetFront™

本製品には ACCESS 社の NetFront Browser ソフトウェアが含まれていま

す。著作権 © 1996-2010 ACCESS Co., Ltd. All rights reserved.
NetFront Browser ソフトウェアは、Independent JPEG Group の製品に一部基づいています。

Camellia

著作権 © 2006, 2007 NTT（日本電信電話株式会社）。
All rights reserved.
Camellia の使用に関する利用条件と免責条項は **http://info.isl.ntt.co.jp/crypt/eng/index.html** で入手できます。

Flash® Lite™

本製品にはアドビシステム社による Flash® Lite™技術が含まれています。本製品にはアドビシステム社からのライセンスの下、Adobe® Flash® player ソフトウェアが含まれています。著作権 © 1995-2010 Adobe Macromedia Software LLC. All rights reserved. Adobe と Flash は米国や他の国のアドビシステム社の登録商標です。

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。 このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作

概要

① COMAND ディスプレイ(▷ 194 ページ)
② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル
③ COMAND コントローラー(▷ 199 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応する機能の選択スイッチを使用する
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用する

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要

ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。 三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

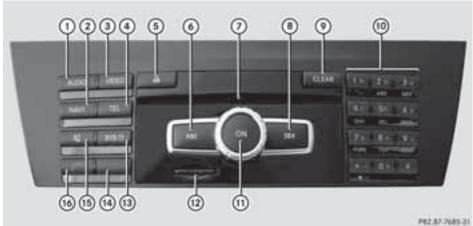
メニュー概要

ナビ	オーディオ	電話	TV/映像	システム	マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	DVD ビデオ		COMAND Online とインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパスを表示する	Bluetooth® オーディオ				
	外部入力				

システムメニュー概要

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	時刻の設定	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	フォーマットの設定			
言語の設定	タイムゾーンの設定			
お気に入りスイッチ				

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
☑Bluetooth®の作動/解除				
データのインポート/エクスポート				
COMAND システムをリセットする				

COMAND コントロールパネル

	機能	ページ
①	最後に選択されていたオーディオモード（例：ラジオモード）に切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	最後に選択されていたビデオモード（例：テレビモード）に切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth® インターフェースによる電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	挿入/排出スイッチ	
⑥	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早戻し 前のトラックを選択する	

	機能	ページ
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を挿入する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早送り 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー • 放送局プリセットによって放送局を選択する • 手動で放送局を登録する • 携帯電話の認証 • 電話番号の入力 • 文字入力 • メモリーから天気予報の場所を選択する # 再生されている現在のトラックを表示する # 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える # 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える * 周波数を手動で入力して放送局を選択する * トラックを選択する	
⑪	COMAND システムのオン/オフを切り替える 音量の調整	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する 通話を終える 保留中の通話を拒否する	
⑮	ミュート ハンズフリーマイクのオン/オフを切り替える ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける 番号をダイアルする リダイアル 保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。
以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作

例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する
- 時計回り、または反時計回りにまわす
- 左右にスライドする
- 前後にスライドする
- 斜めにスライドする

操作の例

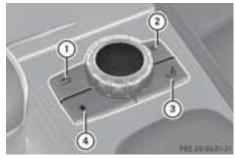
説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

▶ AUDIO スイッチを押す。
最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

▶ COMAND コントローラーをスライドして 、オーディオを選択し、押して 確定します。
オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして 、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して 確定します。
ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要

① リターンスイッチ(▷ 200 ページ)
② クリアスイッチ(▷ 200 ページ)
③ シート機能スイッチ
④ お気に入りスイッチ

ℹ 車両にシート機能スイッチが装備されていない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

リターンスイッチ

リターンスイッチ [↩] を使用して、メニューを終了するか、または現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ [↩] を軽く押します。

COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ [↩] を押して保持します。

COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：** クリアスイッチ [c] を軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** クリアスイッチ [c] を押して保持します。

シート機能のスイッチ

[シート] スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます。

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- アクティブマルチコントロールシートバック（ダイナミックシートとマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

あらかじめ設定した機能をお気に入りスイッチ [*] に指定し、スイッチを押してそれらを呼び出すことができます。

COMAND Online とインターネット

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**

COMAN Online を操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。走行中に通信機器を操作することが法律で認められている場合は、交通状況が許すときのみ操作してください。交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の乗員の方々が負傷するおそれがあります。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク）をサポートしていて、Bluetooth® インターフェース によって COMAND システムに接続されていること。 DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話

のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。
- データオプションがある有効な携帯電話の契約が必要で、それには関連する接続費用が請求されます。
- 接続している携帯電話のアクセスデータが COMAND システムに設定されていること(▷ 202 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例：Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツのアプリケーションの使用可能状況は国によって異なります。

ℹ 利用規約は COMAND Online が初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。 車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ インターネットのページは走行中は表示できません (▷ 208 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。
- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。
- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® インタフェースの電話機能を使用している間に携帯電話の"Bluetooth®"機能がオフになったとき

- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話のネットワークおよび携帯電話のどちらにも、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、オンラインとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。 他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

概要

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 COMAND システムにおいて必要なインターネットアクセスデータの設定は以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。 再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 例えば、適切でないデータは契約と異なる項目や、他の契約/データパッケージの項目です。

ℹ 他の国で車両を運転していて、COMAND システムとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。 交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯のネットワークプロバイダーを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ◎、基本機能バーでマーク 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。

カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、設定 を選択し、押して ◎ 確定します。

携帯電話を初めて COMAND システムに接続するときは、あらかじめ設定されている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。 プロバイダー： に選択されていません という言葉が続きます。

携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称がプロバイダー： の後に表示されます。

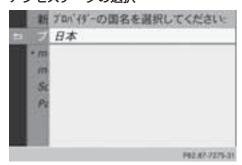
▶ COMAND コントローラーを押します ◎。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます。

• 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する(▷ 203 ページ)
• 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定する(▷ 206 ページ)

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択

プロバイダーの検索

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 202 ページ)。

国のリストが表示されます。

▶ 押して ⓢ、日本 を確定します。
使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます (▷ 202 ページ)。

ⓘ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。 他に国にいるときは、アクセスデータは同じままです（ローミング）。 他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。
複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。 これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークは 1 つのアクセス設定のみです。

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して ⓢ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：**編集 を選択し、ⓢ で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 206 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [⮌] を押すか、または [⮌] マークを選択し、押して ⓢ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ⓢ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 206 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーには複数のアクセス設定があります。

▶ COMAND コントローラーをまわして ◎、適切なアクセス設定を選択し、押して 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：** 編集 を選択し、押して 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 206 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ を押すか、または マークを選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：** "携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 206 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

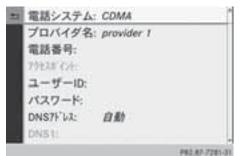
選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して 、リターンスイッチ を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。 標準的な名前 プロバイダー <x> がプロバイダー： 欄に自動的に入力されます。 ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。 名前を自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号:	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント (**A**ccess **P**oint **N**ame：アクセスポイント名) ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザー ID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。

入力欄	意味
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス (**D**omain **N**ame **S**ervice：ドメインネームサービス) は自動的に決めるか、手動で入力することができます。 必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。 マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS 1： DNS 2：	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。 アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立/終了

接続を確立する

接続を確立するための前提条件は、"全体的な注意事項" (▷ 200 ページ) をご覧ください。

▶ **1 つ目のオプション：** COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ◀◎▶、基本機能バーでアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ Mercedes-Benz Apps パネル、または以前に作成されている場合はお気に入りが前面になるまで、COMAND コントローラーをまわすか ◀◎▶、スライドします ←◎→。

▶ **オプション 2：** ウェブアドレス (▷ 209 ページ) を入力します。

▶ どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します ⊛。
インターネットの接続が確立されます。 インターネットの接続の作動は、マーク ① で識別されます。例は、Google™ ローカル検索 機能のメニューを示しています。

▶ **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して ⊛ 中止 を確定します。

または

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

ℹ インターネット接続の作動と同時に通話をすると、[☎] マークが ① に表示されます。インターネット接続は、使用されている携帯電話と携帯電話ネットワークによって接続されたままになります。

接続を終了する

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

または

▶ カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して ⊛ 確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止されると、COMAND システムは再接続しようとします。 そのため、COMAND システムでまたはマルチファンクションステアリング経由で接続を常に閉じるようにしてください。

インターネット

表示制限

インターネットのページは走行中は表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ⟲◎⟳、基本機能バーで🌐 マークを選択し、押して ⊛ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

文字バーまたはテンキーのどちらかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、www を選択し、押して ◎ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力する：** 入力行にウェブアドレスを入力します。
最初の文字を入力行に入力するとすみやかに、リストがその下に表示されます。 入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、ok マークを選択し、押して ◎ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ⟲◎⟳ 。	リンク、文字欄または選択リストなどの選択できる 1 つの項目から次に操作し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする。 ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↗◎↙	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◎。	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。
▶ 押す ⮌	前のページを呼び出します。
▶ 押す c	インターネットのブラウザーを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

ラゲッジルーム

荷物の積み方

⚠ 警告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物の積み方については、"荷物の固定"にも詳しく説明されています。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときはトランクリッドを閉じたままにしてください。さもないと、車両に侵入する排気ガスで中毒になるおそれがあります。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。 荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物を運搬するときは、最大車両総重量および許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 重い物はできるだけ前方、およびトランク内でできるだけ低く配置してください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストよりも高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。 シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 十分な強度があり、耐摩耗性の固定用具で荷物を固定してください。保護のため鋭い角にはパッドを当ててください。

i 荷物固定用のアクセサリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

小物入れに収納物があるときは、確実に閉じてください。 ラゲッジネットは、バッグなどの重い物を固定するためのものではありません。

以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

ラゲッジネットには、鋭利な形状の物や割れやすい物を入れないでください。

シートポケットには、かたい物を入れないでください。 また、シートポケットから収納物がはみ出さないようにしてください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- グローブボックス
- メガネケース
- フロントセンターコンソールの小物入れ
- 前席下の小物入れ
- 後席の小物入れ

ラゲッジネット

⚠ 警告

ラゲッジネットには軽い物のみを収納してください。 重くてかさばる物やかたい物、鋭利な形状の物や割れやすい物はラゲッジネットに入れないでください。 事故のときなどに、収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジネットは、助手席足元とトランクの左および右側面にあります。

リアシートのスルーローディング

重要な安全上の注意

⚠ 警告

トランクに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

トランクリッドは必ず閉じてから走行してください。 排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

左右リアシートのバックレストを別々に倒して、トランク容量を拡大することができます。

シートバックレストを前方に倒す

ℹ メモリー機能装備車両：リアシートバックレストの一方または両方を倒すと、接触を防ぐために対応する側のフロントシートが必要に応じて少し前方に移動します。

▶ メモリー機能非装備車両：必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。

▶ トランクを開きます。

▶ 左右いずれかのリアシートバックレストのリリースハンドル ①を手前に引きます。
対応する側のリアシートバックレストが解除されます。

▶ リアシートバックレスト ② を前方に倒します。

▶ 必要であれば、運転席または助手席側のシートバックレストを移動します。

シートバックレストを倒して戻す

⚠ 警告

リアシートバックレストが確実にロックされていることを確認してください。 以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

リアシートバックレストが確実にロックされていないときは、メーターパネル内のマルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されます。

❗ リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。 損傷するおそれがあります。

▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。

▶ リアシートバックレスト ① を起こしてロックします。

▶ 必要であれば、運転席または助手席側のシートバックレストを移動します。

ℹ 分割可倒式シートを使用しないときは、必ずリアシートバックレストをロックしてください。 車内からトランクへの不意な移動を防止することができます。

荷物の固定

荷物固定用リング

全体的な注意事項

⚠ 警告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

荷物を積むときの注意点を守ってください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。 これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

トランク

① 荷物固定用リング

トランク内に 6 個の固定用リングがあります。

バッグフック

⚠ 警告

バッグフックには軽い荷物のみをかけてください。 重い物、鋭い角のある物やこわれやすい物には使用しないでください。 急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなど、バッグフックでは荷物を確実に固定できない場合があります。 荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。 バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。

▶ タブ ① を持って、バッグフック ②を引き下ろします。

EASY-PACK コンビニエンスボックス

重要な安全上の注意

⚠ 警告

EASY-PACK コンビニエンスボックスには、重量が約 10 kg までの物のみを収納してください。 また、重量が約 5 kg 以上の物を収納するときは、ボックスの底面がトランクフロアマットに接するようにボックスを下ろしてください。

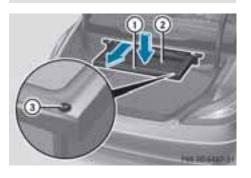
ボックスには、鋭い角のある物やこわれやすい物を収納しないでください。

急ブレーキ時や急な進路変更時などに、EASY-PACK コンビニエンスボックスに収納された荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

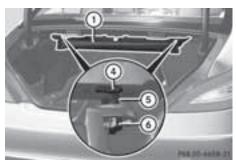
! EASY-PACK コンビニエンスボックスを引き出すときは、ボックスのフレームに物が触れていないことを確認してください。また、上からフレームが押されないように注意してください。 ボックスが損傷するおそれがあります。

コンビニエンスボックスの高さ調整

⚠ 警告

積載面を上げるときは、EASY-PACK コンビニエンスボックスの中に手を触れないでください。 けがをするおそれがあります。

- 停止するまで矢印の方向にハンドル①でボックスを引き出します。
- **積載面を下げる**： 積載面 ② が好みの位置になり、ボックスが好みの大きさになるまで、積載面② の中央部を矢印の方向に手で押し下げます。
- **積載面を上げる**： スイッチ ③を押します。
  ボックスの積載面 ② が自動的に上がります。
- **ボックスを収納する**： 停止するまでハンドル①でボックスを押します。

取り外し / 取り付け

- **取り付ける**： ボックス ① のリテーナー ② を取り付け穴 ③に差し込みます。

- ボックス ① を持ち上げて、フック ⑤ を固定部 ④ にいっぱいまで差し込みます。
- 左側のノブ ⑥ を時計回りに、右側のノブ ⑥ を反時計回りにそれぞれ 90° まわします。
- **取り外す**： 左側の回転ノブ ⑥ を反時計回りに、右側の回転ノブ ⑥ を時計回りに 90° まわします。
- ボックス ① を下げ、手前に引いて固定部 ④から外します。

ℹ 取り外した EASY-PACK コンビニエンスボックスは、棚などの平らな場所に保管してください。

トランクフロアボード下の収納スペース

❗ トランクリッドを閉じる前にハンドルを外し、ハンドルがはみ出さないように確実に戻します。 ハンドルが損傷するおそれがあります。

トランクフロアボード下の収納スペースには、タイヤフィット、車載工具などが収納されています。

- **開く**： ハンドル ① を上に引きます。

▶ ハンドル ① をリアウインドウ下側のトランクの縁 ②にかけます。

ルーフラック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ルーフラックやスキーキャリアおよび荷物の固定方法を誤ると、車両から脱落する場合があります。 キャリアや荷物が放り出されて、乗員がけがをしたり、事故が起こるおそれがあります。 ルーフラック / スキーキャリアの取り扱いについては、製品に添付の取扱説明書をお読みください。

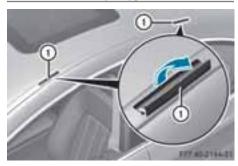
ルーフに荷物を積んでいると、車両の重心位置が変化し走行安定性に影響を与えます。 ルーフに積む荷物は、最大積載量 100 kg を超えないように注意してください。 ルーフに荷物を積んでいるときは、道路状況や天候状態に合わせて運転スタイルを変えて、十分に注意して運転してください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを装着するときはスライディングルーフをいっぱいに上げることができ、トランクリッドをいっぱいに開くことができることを確認してください。

! カバーやルーフの損傷を防ぐため、カバーを開くのに金属製の物やかたい物を使用しないでください。

ルーフラックの取り付け

▶ カバー ① を矢印の方向に注意して開きます。

▶ ルーフラックはカバー ①の下のマウント部に装着します。

▶ ルーフラックの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書の指示に従ってください。

室内装備

デジタル版取扱説明書の情報

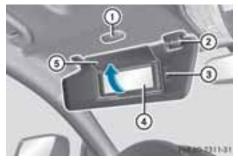
デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- カップホルダー
- ボトルホルダー
- リアウインドウの電動ブラインド
- 灰皿
- ライター
- 12 V 電源ソケット

サンバイザー

概要

⚠ 警告

走行中はサンバイザーのバニティミラーのカバーを閉じてください。 眩惑により視界を確保できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

① ミラーライト
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさを防ぐ

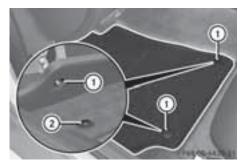
運転席のフロアマット

⚠ 警告

フロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットは、固定用ノブと凸部を使用して、確実に固定してください。

走行前にフロアマットを点検し、必要に応じて適切に調整してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ってペダルに引っかかり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

運転席のフロアマットは重ねて使用しないでください。

▶ シートを後方に動かします。
▶ **取り付ける：** フロアマットを足元に敷きます。
▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。
▶ **取り外す：**フロアの凸部 ② からフロアマットを引いて外します。
▶ フロアマットを取り外します。

後付けした遮光フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルについて、は、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットを開く

⚠ **警告**

走行中はボンネットロック解除レバーを絶対に引かないでください。ボンネットが開いて視界が妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

エンジン部品は非常に高温になっている可能性があります。

火傷を防ぐため、ボンネットを下降させる場合は、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、必ず注意事項を守ってください。

⚠ **警告**

エンジンスイッチからキーを抜き取ってからも、ラジエーターとエンジンの間のラジエーターファンが自動的に回転することがあるので、ファンなどの回転部には、絶対に身体を近づけないでください。負傷するおそれがあります。

電子制御イグニッションシステムには高電圧が発生しています。以下の場合は、イグニッションシステムの部品(イグニッションコイル、イグニッションケーブル、スパークプラグのコネクター、ソケットなど)に決して手を触れないでください。

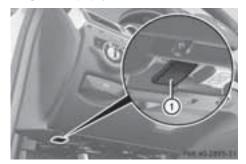
- エンジンが作動している
- エンジンを始動する
- イグニッションをオンにして、始動操作を行う

⚠ **警告**

ワイパーが作動状態に設定されている可能性があります。

ボンネットが開いている場合にワイパーが作動すると、ワイパーリンケージに触れて負傷するおそれがあります。

ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください。エンジンスイッチからキーを抜き取るか、あるいはキーレスゴースイッてチを押しイグニッション位置が選択されていないことを確認してください。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯 します。

! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットの解除レバー ① を引きます。
ボンネットが解除されます。

▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。
ボンネットを約 40 cm 持ち上げると、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

⚠ **警告**
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

⚠ **警告**
ボンネットがロックされていないと、走行中に開くことがあります。 これにより視界が遮られたり、事故の原因になるおそれがあります。そのため、走行する前にボンネットがロックされていることを確認してください。
ボンネットを閉じるときは、身体が挟まれないことを確認してください。

▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。 再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。 エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車は 1,000 km 当たり最大で約 0.8 L のオイルを消費します。 新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによって、エンジンオイルレベルゲージの取り付け位置が異なる場合があります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジン始動直後などエンジンが通常の作動温度に達していないときは、約 30 分 以上経過してから点検を行なってください。

エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検する

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。

▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。
量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。

▶ オイルレベルが MIN マーク ③ にまで減っている、またはそれより下回っている場合、エンジンオイルを約 1.0 L 追加してください。

エンジンオイルの補給

⚠ 警告

エンジンオイルが高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。 エンジンオイルを高温のエンジンルーム内にこぼさないよう注意してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。 サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。
エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。 エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。 余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

例：エンジンオイルキャップ

▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。
オイル量がオイルレベルゲージの MIN マーク以下のときは、約 1.0 L のエンジンオイルを補給してください。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。
キャップが元の場所に固定されていることを確認します。

▶ オイルレベルゲージを使用してオイル量を再度点検します。 (▷ 222 ページ)

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 274 ページ) をご覧ください。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。 アシストプラスのメンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。 ただし、交換時期は使用状況に左右されます。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ **警告**

冷却システムには圧力がかかっています。 そのため、エンジンが冷えてからキャップを緩めてください。 冷却水温度表示が約 70 ℃以下でなくてはなりません。高温の冷却水が吹き出して火傷をするおそれがあります。

▶ 車を水平な場所に停めます。

車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水の量を点検します。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にします。(▷ 127 ページ)

キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを 2 回押します。 (▷ 128 ページ)

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。
冷却水温度は約 70 ℃以下でなければなりません。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** (▷ 127 ページ) の位置にします。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
水温が低いときに冷却水の液面が補給口のマーカーバー ③ の高さに達していれば、リザーブタンク ② 内の冷却水量は十分です。
温かいときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③から約 1.5 cm のところにあれば、リザーバータンク②内の冷却水は十分にあります。

▶ キャップ ① を元通りに取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 274 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

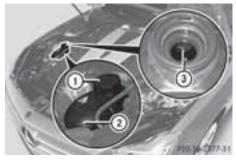
⚠ **警告**

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがありま

▷▷

す。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

例

冷却水リザーブタンク ② 内の液量が低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
使用状況 (▷ 274 ページ) に合わせた水道水と不凍 / 腐食剤の濃度で使用します。
▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。
▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷やします。
▶ 冷却水の量 (▷ 223 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

冷却水の交換時期

冷却水の品質は時間とともに劣化します。 整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

オーバーヒートしたとき

⚠ **警告**

エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

エンジン部品は非常に高温になっている可能性があります。

火傷を防ぐため、ボンネットを下降させる場合は、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、必ず注意事項を守ってください。

⚠ **警告**

冷却システムには圧力がかかっているので、必ずエンジンが冷えてから、キャップを緩めてください。冷却水温度表示が約 70 ℃以下にならないと、高温の冷却水が噴き出して火傷をするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 ℃ 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水が減少 停車して エンジンを停止というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の [冷却水警告灯アイコン] 冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

そのほかのサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

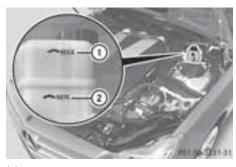
⚠ 警告
ウォッシャー液または不凍液は可燃性です。発火して燃えるおそれがありますので、熱くなったエンジン部品の上に、ウォッシャー液または不凍液をこぼさないようにしてください。重度の火傷を負うおそれがあります。

▶ **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
▶ 混合しておいたウォッシャー液を補給します。
▶ **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーのウォッシャー液リザーブタンクは共用です。

ウインドウウォッシャー液 / 凍結防止液について、詳しくは (▷ 275 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液量

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークに下がった、あるいは下回ったことに気がついた場合は、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。 ブレーキパッド / ライニングの厚さも点検してください。
ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

例

ブレーキ液量の点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。 ブレーキ液の液面がブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク ② と MAX マーク ① の間にあれば適量です。

サービス

メンテナンスインジケーター

デジタル取扱説明書には、メンテナンスインジケーター画面に関するその他の情報が記載されています。

日常の手入れ

全体的な注意事項

環境
空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

• 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
• 研磨剤を含む洗剤

- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。そのまま運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで、洗車後しばらくは慎重に運転してください。

⚠ **警告**

ホールド機能またはディストロニックプラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。車両を自動洗車機で洗車する前に、ホールド機能とディストロニックプラスを解除してください。

! 注意：

- サイドウインドウおよびスライディングルーフが完全に閉じていること。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（OFF スイッチが押されていること）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

! けん引装置付きの洗車機では、オートマチック車の場合シフトポジションを **N** にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

- キー装備車：
  Z エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に P レンジ **P** にシフトされ、ホイールがロックします。オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にすることにより、ホイールのロックを防ぐことができます。
- キーレスゴー装備車：
  エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に P レンジ **P** にシフトされ、ホイールがロックします。

以下の注意を守って、オートマチックトランスミッションが **N** の位置に入っていることを確認してください。

▶ 車両が停止中でイグニッションがオフになっていることを確認してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** (▷ 127 ページ) の位置にします。
キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチではなくキーレスゴースイッチを操作します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ パーキングブレーキを解除します。
▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。 フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーの音を低減します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 手洗い
- 高圧式スプレーガン
- 塗装面の清掃
- マットペイント塗装車の取り扱い
- ホイールの清掃
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- パーキングアシストリアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- ナイトビューアシストプラスの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングとギアレバー / セレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

車載品の収納場所

懐中電灯

車内には懐中電灯が装備されています。

運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ℹ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。 初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

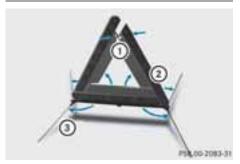
ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。 電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し

▶ トランクリッドを開きます。

▶ キャッチを矢印の方向に 90° まわして、停止表示板 ①を取り外します。

停止表示板の組み立て

▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部の押し込み式ビス ① を使用して上部で固定します。

救急セット

▶ トランクリッドを開きます。

▶ 収納ネットを下にスライドします。

▶ 小物入れのカバーを開きます。

▶ テンショニングストラップ ① を外します。

▶ 救急セット ② を取り出します。

ℹ 最低 1 年に 1 回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。 中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

車載工具

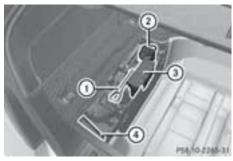
全体的な注意事項

車載工具はトランクフロアボードの下に収納されています。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。 タイヤ交換用ツールの中にはその車両専用のものも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

タイヤフィット装備車

① けん引フック

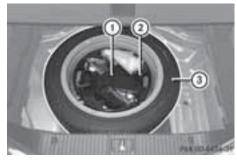
② タイヤフィットのボトル

③ 電動エアポンプ

④ ヒューズ配置表

▶ トランクリッドを開きます。

▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 216 ページ)

応急用ミニスペアタイヤ装備車

① 車載工具トレイ

② 収納トレイ

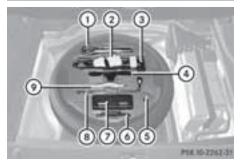
③ "ミニスペア"応急用スペアタイヤ

▶ トランクリッドを開きます。

▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 216 ページ)

車載工具には以下のものが収納されています。

- 折りたたみ式輪止め
- ヒューズ配置表
- ジャッキ
- ガイドボルト
- 手袋
- ホイールレンチ
- けん引フック

コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両（AMG 車両）

① けん引フック
② 手袋
③ ジャッキ
④ 折りたたみ式輪止め
⑤ ガイドボルト
⑥ 故障タイヤ用シート
⑦ 電動エアポンプ
⑧ ホイールレンチ
⑨ ヒューズ配置表

▶ トランクリッドを開きます。
▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 216 ページ)

タイヤのパンク

車両の準備

車輪の交換/装着に関する情報(▷ 255 ページ).

MOExtended タイヤ装備車の場合、車両の準備作業は必要ありません。

車両によって、以下の装備があります。

- MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）
- タイヤフィットキット
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）

▶ 走行中にタイヤがパンクしたときは、交通の妨げにならず、地面がかたく滑らない水平な場所に停車します。
▶ 非常点滅灯を点滅させます。
▶ パーキングブレーキをかけます。
▶ ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
▶ AIR マティックサスペンション装備車両："ノーマル" レベルが選択されていることを確認します。(▷ 150 ページ)
▶ エンジンを停止します。
▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、0 が表示されています。
▶ **キーレスゴー装備車両：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。 (▷ 128 ページ)
▶ 乗員は全員車から降りてください。 降車時は、周囲の安全を確認してください。
▶ 車輪が交換されている間は、危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。 作業者以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。
▶ 運転者も車から降ります。 降車時は周囲の交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な距離で停止表示板を置いてください。(▷ 230 ページ)法規を遵守してください。

ℹ 自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用

することが法律で義務付けられています。

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）

⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）装備車は、1 本または複数のタイヤが完全にパンクした状態でも走行を続けることができます。

作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムとの組み合わせでのみ MOExtended タイヤを使用してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両にいっぱい積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって減少したり、穏やかな運転スタイルによって増大することがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

ⓘ 1 つまたはすべてのタイヤを交換するときは、"MOExtended"マークのあるタイヤのみを使用していることを確認してください。 車両指定のサイズのタイヤのみを使用してください。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、 4 mm までのパンク、特にタイヤのトレッドのものをふさぐことができます。タイヤフィットは、外気温度が約 -20 ℃に下がるまで使用できます。

⚠ 警告

以下の状況の場合は、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷している場合
- タイヤ空気圧が非常に低い状態や、完全にパンクした状態で走行した場合

事故の危険性があります。
それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

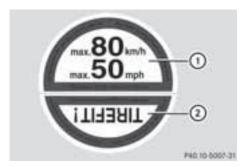
⚠ 警告

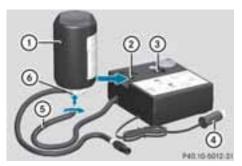
タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

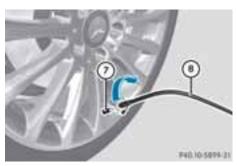
- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

! 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤフィットステッカー、2 部分

- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ トランクフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します。(▷ 231 ページ)
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ① を運転者の視界内に貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ② を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。

▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をハウジングから取り出します。

▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。

▶ タイヤフィットのボトル① を頭を下にして電動エアポンプのリセス ② にはめます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ にねじ込みます。

▶ コネクター ④ を車両の 12V 電源ソケット (▷ 217 ページ) に差し込みます。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 127 ページ)。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **I** の位置にします。
電動エアポンプが作動し始めます。 応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、パンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。 圧力が一時的に約 500 kPa（5 bar/73 psi）まで上がることがあります。

この間は、電動エアポンプの電源スイッチをオフにしないでください。

▶ タイヤ充填コンプレッサーを約 5 分間作動させます。 タイヤは約 180 kPa（1.8 bar / 26 psi）以上の空気圧に達していなければなりません。

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa （1.8bar / 26 psi）に達している場合：(▷ 236 ページ)

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa （1.8bar / 26 psi）に達していない場合：(▷ 235 ページ)

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。 フィルム状になり、剥がすことができます。
衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

適正でないタイヤ空気圧

5 分後に空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しない場合。

▶ 電動エアポンプを停止します。

▶ パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。

▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。

▶ 再度、タイヤに空気を注入します。
最大 5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上でなければなりません。

⚠ **警告**
規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、 タイヤフィットによる タイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

適正なタイヤ空気圧

⚠ **警告**

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、 指定された最高速度を超過しないでください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi)に達している場合：

▶ 電動エアポンプを停止します。

▶ パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。

▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。

▶ **ただちに発進します。**
タイヤフィットで修理したタイヤの最高速度は 80 km/h です。 タイヤフィットステッカーの上部を、メーターパネルの運転者の視界内に貼ってください。

▶ 約 10 分間走行した後で車を停め、電動エアポンプを取り付けてタイヤ空気圧を点検してください。
タイヤ空気圧は 130 kPa（1.3 bar/19 psi）以上である必要があります。

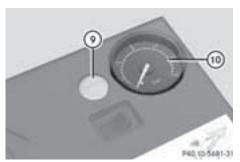
⚠ **警告**

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。 タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 事発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ まだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi)以上の場合は、タイヤ空気圧を調整します（値は燃料給油フラップをご覧ください）。

▶ **タイヤ空気圧を上げる：** 電動エアポンプのスイッチを入れます。

▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整スイッチ ⑨ を押します。

- ▶ タイヤ空気圧が正しい場合は、修理したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ 修理したタイヤのバルブにバルブキャップを締めます。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。

  充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意

取り外し、または取り付けなどのバッテリーに関する作業は、専門的な知識と特別な工具の使用が必要です。 したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ABS(アンチロックブレーキング・ステム)または ESP®(エレクトロニックスタビリティプログラム)のような走行安全装備の故障の原因になります。

- ABS が故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ブレーキ時のステアリング操縦性が制限され制動距離が長くなるおそれがあります。 事故発生の危険性があります。
- ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができないので、事故発生の危険性があります。

したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

爆発のおそれがあります。

バッテリーを取り扱うときは、火気や直火、タバコなどを近づけないでください。 火花が発生しないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流してください。 応急処置の後、医師の診察を受けてください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近づけないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ 警告

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。 これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の注意事項を守ってください。

- バッテリーをのぞき込まないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。 バッテリーがショートして可燃性のガスに引火し、爆発するおそれがあり危険です。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、繊維の摩擦による帯電を防止してください。カーペットや合成繊維の物の上でバッテリーを引きずらないでください。
- いきなりバッテリーに触れないでください。 バッテリーに触れるときは、降車時に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。 静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。 端子を入れ替えないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション搭載車では、バッテリーの接続を外した後、トランスミッションは P 位置に固定されます。 車両は走り出さないように固定されます。 車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。 そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。 純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。 詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。 車を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。 エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

ℹ 電力供給が中断した場合、例えば、バッテリーが放電した場合は、以下を実行する必要があります。

- 時計の設定をします。 時計の設定に関する情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。
  COMAND システムおよびナビゲーションシステム装備車は、時計は自動的に設定されます。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開 / 格納機能をリセットします。 (▷ 105 ページ)

バッテリーの充電

⚠ **警告**

バッテリーの充電は必ず換気の行き届いた場所で行なってください。充電中は、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発が起こるおそれがあり危険です。バッテリー液が噴き出すと、作業者や周りの方々が負傷したり、塗装面が損傷したり、車体に腐食が発生するおそれがあります。

バッテリーを車両から取り外さずに充電できるバッテリー充電器についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると、爆発が起こり、火傷を負うおそれがあります。 充電中はバッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム (▷ 240 ページ)内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネット (▷ 220 ページ) を開く

▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。 (▷ 240 ページ)

ジャンプスタート

⚠ **警告**
他車のバッテリーを電源として始動している時に、バッテリーからガスが噴き出て負傷するおそれがあります。 他車のバッテリーを電源として始動してい時は絶対にバッテリーをのぞき込こまないでください。

⚠ **警告**
ジャンプスタートとは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーなどを電源としてエンジンを始動させる方法です。ジャンプスタートを行なう時は、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると、爆発が起こるおそれがあります。火花が発生しないように注意してください。 火気や裸火、タバコの火などを、絶対にバッテリーに近づけないでください。
バッテリーを取り扱う時は、重要な安全上の注意を守ってください。さくいんの"バッテリー(車両) - 重要な安全上の注意"をご覧ください。

⚠ **警告**
ジャンプスタートを行なう場合は、以下の注意事項を守ってください。
- 救援車のバッテリーをのぞき込まないでください。
- 救援車のバッテリーを傾けないでください。

バッテリーが爆発して、負傷するおそれがあります。

⚠ **警告**
未燃焼燃料が排気システムに充満して発火するおそれがあります。 火災のおそれがあります。 エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

! **ガソリンエンジン車：** 繰り返しての、および長時間にわたる始動の試みは避けてください。未燃焼燃料によって触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

急速充電器によるエンジン始動を行なわないでください。 バッテリーがあがったときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーや補助バッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。 以下の点に注意して、慎重に作業を行なってください。

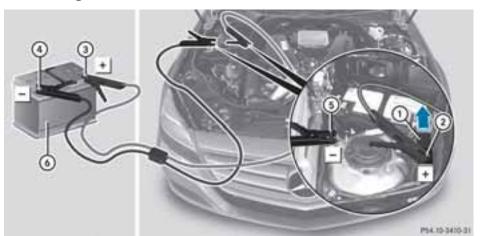
- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。 他車のバッテリーが手の届きにくい位置にある場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート装置の電源を使用してエンジンを始動してください。
- **ガソリンエンジン車：** エンジンおよび排気システムが冷えているときのみ、車両をジャンプスタートしてください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジンを始動しないでください。 バッテリー液を解凍してから行なってください。
- ジャンプスタートは、公称電圧 12 V のバッテリーからのみ実行できます。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

• バッテリーが完全に放電した場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。 その間、バッテリーは十分な電力を溜めることができます。
• 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

• ブースターケーブルが損傷していないこと。
• ブースターケーブルをバッテリーに接続している間に、ターミナルクランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しないこと。
• ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。 エンジンが始動し回転し始めると、これらの部品は動きます。

▶ パーキングブレーキをしっかりと踏みます。
▶ シフトポジションを P にしてください。
▶ シフトポジションを P にしてください。
▶ 電気装備（ラジオ、エアコンディショナーなど）をすべて停止します。
▶ ボンネット (▷ 220 ページ) を開く

バッテリー ⑥ は、救援車のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。
▶ ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援車のバッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。 常にまず自車のプラス端子 ② から始めます。
▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
▶ ブースターケーブルを救援車のバッテリー ⑥ に接続します。次に、救援車のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のバッテリーのアース端子 ⑤ に接続します。

▶ エンジンを始動してください。
▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
▶ 最初にブースターケーブルをアースポイント ⑤ とマイナス端子 ④から、次にプラス端子 ② とプラス端子 ③から取り外します。その際、いずれも自車の端子から作業を開始してください。
▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

i ジャンプスタートは正常な作動状態とはみなされません。

i ジャンプブースターケーブルおよびジャンプスタートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引による始動

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

けん引を行なう時に、以下の条件の場合は、強度のあるけん引ロッドを使用してください。
- エンジンが作動しない場合
- ブレーキシステムが故障している場合
- 電力供給や車両の電気装備に異常がある場合

エンジンが停止している時は、ステアリングのパワーアシストおよびブレーキブースターが作動しないので、ブレーキおよびステアリングの操作にはより大きな力が必要となります。必要に応じて、ブレーキペダルを最大限の力で踏み込む必要があります。

けん引を行なう前に、ステアリングをスムーズに操作することができ、ロックしていないことを必ず確認してください。

お客様の車両より重い車のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。 けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。 車体が損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。
- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。 可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずにキーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが **P** になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。 けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両積載車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

車両総重量値に関する情報はビークルプレート (▷ 272 ページ) をご覧ください。

けん引を行なうときは、各国の法規制を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、移送することをお勧めします。

車両がトランスミッションに損傷を受けた場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

オートマチック車をけん引してもらうときは、シフトポジションを **N** にします。

バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。そうしないと、以下の問題が起こります。

- イグニッション位置を **2** にすることができなくなる
- オートマチック車の場合、シフトポジションを **N** にすることができなくなる

i 車速感応ドアロック (▷ 93 ページ) を解除してください。 さもないと、車両を押したりけん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能 (▷ 81 ページ) を解除してください。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

⚠ **警告**

マフラーは熱くなっていることがあります。手などがマフラーに触れると火傷をするおそれがあります。後部カバーを取り外す時は、十分に注意して作業を行なってください。

例：けん引フックカバー

けん引フックカバー（AMG 車両）

脱着式けん引フックの取り付け部はバンパーに付いています。 前後のバンパーのカバーの下にあります。

- 車載工具キットからけん引フックを取り出します。 (▷ 231 ページ)
- 指を凹部に入れて、カバー ① をバンパーから矢印の方向に引きます。
- カバー ② のマーク部を矢印の方向に内側に押します。
- カバー ② を開口部から外します。
- 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

- けん引フックを緩めて取り外します。
- カバー ① の上部をバンパーに合わせ、固定されるまで下に押します。
- カバー ② をバンパーに取り付け、固定されるまで押します。
- けん引フックを車載工具に収納します。

リアをつり上げてけん引を行なう場合

❗ リアをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。 ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

4MATIC 非装備車のみ、

- 非常点滅灯スイッチを押します。 (▷ 110 ページ)
- イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜き取ります。
- 車両から離れるときは、キーを閉じ込めないよう注意してください。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、以下の安全指示を遵守することが重要です(▷ 242 ページ)。

フロントとリアが共に接地した状態でけん引する

⚠ **警告**

エンジンが停止している時は、ステアリングのパワーアシストおよびブレーキブースターが作動しないので、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力

が必要になります。 状況に応じて、運転方法を調整してください。

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。 (▷ 242 ページ)

運転席か助手席ドアを開く、またはエンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションは自動的に **P** の位置にシフトします。 車両をけん引する時にオートマチックトランスミッションを **N** の位置に保つため、以下の点を遵守してください。

▶ 停車していることを確認し、イグニッション位置を **0** にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチ (▷ 128 ページ)ではなくキーを操作します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。 (▷ 110 ページ)

▶ イグニッション位置を **2** にします。

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、通常通りにコンビネーションスイッチを操作して方向指示を行なってください。 このときは、操作した側の方向指示灯が点滅します。 コンビネーションスイッチを戻すと、非常点滅灯が再び点滅します。

車両を運搬する

! 車両運搬車に積載して固定するときは、固定ロープをアクスルやステアリング部品などにかけずに、ホイールやホイールリムにかけてください。 車体が損傷するおそれがあります。

けん引フックはトレーラーまたは輸送用トランスポーターで車両をけん引するために使用します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

▶ 車両が動き出すのを防止するため、パーキングブレーキを効かせてください。

▶ オートマチックトランスミッショのシフトポジションを **P** にします。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜き取ります。

▶ 車両を固定します。

4MATIC 車に関する注意

! 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

電気装備が損傷したとき

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションは **P** の位置でロックされます。 オートマチックトランスミッションを **N** の位置にシフトするには、ジャンプスタート時と同じ方法で 車両の電気装備に電力を供給しなければなりません(▷ 240 ページ)。

運搬車またはトレーラーで車両を運搬してください。

けん引による始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。 トランスミッションが損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート"に関する情報は (▷ 240 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ 警告
ヒューズは必ずメルセデス・ベンツの車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 切れているヒューズを修理したり、つなごうとしたりしないでください。 適合しないヒューズを使用したり、切れたヒューズを修理したりつなごうとすると、ヒューズに過負荷がかかり、火災の原因になります。 ヒューズ切れの原因の特定や修理は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両にあるヒューズは、異常のある回路への接続を切断する働きをします。ヒューズが切れると、回路上のすべての構成部品とそれらの機能は作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ規定容量のヒューズと交換してください。 ヒューズの電流値は、ヒューズ一覧に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因をたどり、修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 135 ページ)

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわして、キーを抜き取ります。(▷ 127 ページ)

または

▶ キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします。(▷ 128 ページ)

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- 進行方向に見たときの車両のエンジンルーム内左側のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のトランク内右側のヒューズボックス

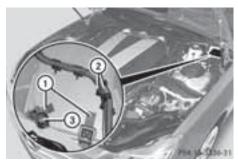
ヒューズ配置表は、トランクフロア下にある小物入れ内の車載工具にあります。(▷ 231 ページ)

エンジンルーム内のヒューズボックス

⚠ 警告
ヒューズボックスのカバーを開く前に、ワイパーがオフになっていること、エンジンスイッチからキーを抜いていることを確認してください。ワイパーとワイパーリンケージがカバー上で動き始める可能性があります。これにより、ワイパーリンケージに身体が挟み込まれるおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの作動に障害が発生するおそれがあります。

- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットを開きます。

- ▶ 乾いた布で、カバーに付着した水分を拭きとります。
- ▶ **開く：** ホース②をガイドから取り外します。
- ▶ ホース ② をわきによけます。 このとき、ホースを連結部 ③ の後ろにまわします。
- ▶ クランプ①を開きます。
- ▶ 前方に向けてヒューズボックスカバーを取り外します。
- ▶ **閉じる：** カバーのガスケットが正しい位置にあることを確認します。
- ▶ カバーを、ヒューズボックス後部の挿入部に差し込みます。
- ▶ カバー を下方に下ろし、クランプ①を閉じます。
- ▶ ホース ② をクリップに取り付けます。
- ▶ ボンネットを確実に閉じてください。

トランク内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの作動に障害が発生するおそれがあります。

- ▶ トランクリッドを開きます。

- ▶ **開く：** 平らな物を使って、カバー ① 上部の左右を取り外します。
- ▶ カバー ① を矢印の方向に向かって下方に開きます。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品（型式、メーカー、モデル）の仕様を満たすホイールやタイヤと必ず交換してください。

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツによりお客様の車両に承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは操作安全性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおとずれ、以下のことをご質問ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールおよびタイヤのサイズと種類に関する情報は "ホイール/タイヤの組み合わせ" (▷ 260 ページ)にあります。

車両のタイヤの空気圧に関する情報は以下をご覧ください。

- 燃料給油フラップにあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧"

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。 ホイールスペーサブラケットまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。 このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

ⓘ タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。 このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。 タイヤに異常を感じたら、速度を落

として慎重に運転してください。 すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。 タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。 損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

駐車時は、タイヤが縁石や障害物に接触して変形しないように注意してください。 また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。 そうしないと、特にタイヤのサイドウォールなどが損傷するおそれがあります。

タイヤとホイールの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

タイヤとホイールの点検は、運転前、また悪路や凸凹路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。 特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▷ 251 ページ)。 必要であれば、タイヤ表面内側を点検するために、いっぱいにロックされるまで前輪をまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。 純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。 純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニターシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要に応じて、タイヤ空気圧を調整してください。 (▷ 252 ページ)

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください。 (▷ 265 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- タイヤ総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- M+S タイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤとホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新品のタイヤでは最初の約 100 km では適度な速度で走行してください。この距離の後でのみ、最大限の性能を発揮します。
- 残り溝の深さが不足したタイヤで走行しないでください。 濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 265 ページ)。

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）装備車は、1 本または複数のタイヤが完全にパンクした状態でも走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステム、およびメルセデス・ベンツで特別に検査したタイヤとの組み合わせでのみ使用してください。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▷ 233 ページ)

ℹ MOExtended タイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。

ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

寒冷時の取り扱い

デジタル版取扱説明書の情報

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがあります。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下の場合はスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化した時
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わった時

必要に応じて、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

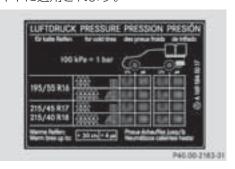
少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

燃料給油口裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

応急用スペアタイヤでの操作(▷ 265 ページ).

燃料給油口の裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。 これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。 実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

P40.00-2183-31

タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 車両が約 1.6 km 以上走行しなかった場合

周辺温度、走行速度およびタイヤにかかる荷重に応じて、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は 10 ℃ ごとに、約 10 kPa（0.1 bar/1.5 psi）変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検する際には、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に比べてタイヤ空気圧が非常に低すぎるときだけ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします（ハイドロプレーニング現象など）。

ⓘ 低負荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。 これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

タイヤ空気圧警告システムは、走行中に4輪すべてのホイール回転速度を感知することによりタイヤ空気圧をモニターします。 システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を感知することができます。 タイヤ空気圧の低下にともないホイールの回転速度が変化すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

誤ってタイヤ空気圧を設定しても、タイヤ空気圧警告システムは警告しません。推奨タイヤ空気圧に関する注意を遵守してください (▷ 252 ページ)。

タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

タイヤ空気圧モニターは、タイヤに異物が刺さった場合など急激に空気圧が低下した場合は、警告を行なうことができません。 空気圧が突然低下した場合、ブレーキを慎重にかけて車両を停止します。 急激なステアリング操作をしないようにしてください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況では正常に作動しなくなったり、反応が遅れることがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 積雪路や凍結路を走行しているとき
- 砂地や砂利道を走行しているとき
- スポーティ走行時（高速コーナリング、急加速など）
- 重い荷物を車内やルーフに積載しているとき

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のような作業を行ったときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ 再始動する前に、タイヤ空気圧が作動状況に対応して、4本のタイヤすべてで適正に設定されていることを確認してください。

指定タイヤ空気圧は燃料給油口のラベルに記載されています。 タイヤ空気圧警告システムは、タイヤが適正な空気圧に調整されているときだけ信頼性のある警告を表示することができます。 タイヤ空気圧が不適切な場合は、この不適切な値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧の注意事項も遵守してください。 (▷ 252 ページ)

▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置 (▷ 127 ページ)にあることを確認します。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] を押して、アシス メンテ セッテイ メニューを選択します。
▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、タイヤ空気圧 を選択します。
▶ [OK] スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動 というメッセージが表示されます。

再起動を確定するには、以下の操作を行なってください。

▶ [OK] スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 正常ですか？ というメッセージが表示されます。
▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、はい を選択します。
▶ [OK] スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム 再始動しました というメッセージが表示されます。
測定プロセスが終了すると、タイヤ空気圧警告システムが 4 輪すべてのタイヤ空気圧のモニターします。

再起動をキャンセルするには、以下の操作を行なってください。

▶ [⮌] スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか？ というメッセージが表示されるときは、[▲] または [▼] スイッチを押して、キャンセル を選択します。
▶ [OK] スイッチを押す。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

タイヤの交換

タイヤのパンク

"万一のとき"にはタイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報があります (▷ 232 ページ)。 パンクしたときの MOExtended タイヤでの走行に関する情報もあります。

タイヤローテーション

⚠ **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

"車輪の取り付け"(▷ 256 ページ)の指示および安全上の注意を遵守してください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。 これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。 一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起こりやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起こりやすい傾向があります。

フロントとリアの車輪が同じサイズの車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約 5,000 km ～ 10,000 km 走行毎に車輪を入れ替えることができます。 タイヤの回転方向は維持してください。

タイヤを入れ替えるときは、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃

してください。 必要であれば空気圧を点検し、タイヤ空気圧警告システムを再起動します。

タイヤの回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

タイヤの保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

ホイールの清掃

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

タイヤの取り付け

車両の準備

- かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- パーキングブレーキをかけます。
- ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
- トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- AIR マティックサスペンション装備車両："ノーマル" レベルが選択されていることを確認してください。 (▷ 150 ページ)
- エンジンを停止します。
- **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
- **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
  マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、**0** が表示されています。
- **キーレスゴー装備車両：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。 (▷ 128 ページ)
- 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。 タイヤ交換用ツールの中にはその車両専用のものも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する

車両に輪止めが装備されている場合、タイヤ交換工具キットの中にあります。(▷ 231 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。

▶ 下側のプレートを引き出します ②。

▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。

水平な場所で車両に輪止めをする

▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

緩い下り坂で車両に輪止めをする

▶ **緩い下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車高を上げる

⚠ 警告

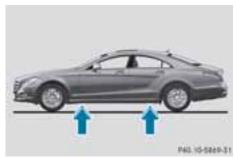
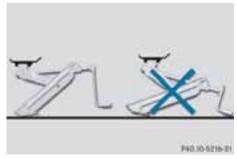
車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両をジャッキアップするときは、以下のことを必ずお守りください。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツ純正の車両専用ジャッキを必ず使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。 車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。

- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行なわないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキをかけて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。 車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。 柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。 滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキの高さ制限による耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に横たわらないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にエンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にドアやトランクリッドを開閉しないでください。
- ジャッキアップした状態で車両に人が乗っていないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。 この時点では、ホイールボルトを完全に緩めません。

▶ ジャッキ ③ をジャッキポイント ② の位置に合わせます。

例

▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下にくるように設置してください。

- ジャッキハンドル ④ を時計回りにまわして、ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に確実にはまり、ジャッキの底面が地面に水平に接地していることを確認します。
- ジャッキハンドル④ をまわし、タイヤが地面から約 3 cm 離れるまでジャッキアップします。

タイヤの取り外し

! **AMG 車：**ホイールの取り外しや取り付けの際に、ホイールリムがセラミック製ブレーキディスクに当たると、ブレーキディスクが損傷するおそれがあり、必ず大人 2 人で注意して作業を行ってください。必要に応じて、ガイドボルトを 2 本使用してください。

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

- 上側のホイールボルトを 1 本外します。
- ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。
- 残りのホイールボルトを完全に外します。
- タイヤを取り外します。

新しいタイヤの取り付け

⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。 それ以上は走行を続けないでください。

⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪交換" (▷ 255 ページ) にある指示や安全上の注意に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。 安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。

! **セラミックブレーキディスク装備の AMG 車両：** 車輪の取り外し、および位置合わせをしている間は、ホイールリムがセラミックブレーキディスクに当たり、損傷するおそれがあります。そのため、注意して、他の人に支援してもらってください。あるいは、2 本目のガイドボルトを使用することもできます。

車輪の位置合わせ（例：応急用スペアタイヤ装備車両）

▶ ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。

▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。

▶ ガイドボルトを取り外します。

▶ 最後のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。

▶ **コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両：** コラプシブル応急用スペアタイヤを充填します。(▷ 267 ページ)

必ずその後で車両をジャッキダウンします。

車高を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

! **コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両：** 車高を下げる前にタイヤ充填コンプレッサーを使用してコラプシブル応急用スペアタイヤを充填してください。さもないと、ホイールリムを損傷するおそれがあります。

ホイールボルトを締める（例：応急用スペアタイヤ装備車両）

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、車体を下げて再び接地させます。

▶ ジャッキを外し、横に置きます。

▶ 示されている順番で（① ～ ⑤）、十字パターンでホイールボルトを均一に締め付けます。締め付けトルクは **130 Nm** にしなければなりません。

▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。

▶ ジャッキとその他の車載ツールをトランクに再び収納します。

▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、点検結果に応じて調整します。

推奨タイヤ空気圧を遵守してください (▷ 252 ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラットタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラットタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。 中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越えることが増加するので、ホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口の内側にあります。 タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は (▷ 252 ページ)をご覧ください。 定期的に、かつタイヤが冷えているときのみにタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ（MOExtended）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtended タイヤ装備車両には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。 ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

ℹ すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国の工場で装着できるわけではありません。

タイヤ

CLS 350 BlueEFFICIENCY

サマータイヤ

R 17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 245/45 R17 99 Y XL	BA：8.5 J x 17 H2 ET 34.5
BA： 245/45 R17 99 Y XL MOExtended[1]	BA：8.5 J x 17 H2 ET 34.5

R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/40 R18 99 Y XL[2]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5
BA： 255/40 R18 99 Y XL MOExtended[1, 2]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5
FA： 255/40 R18 99 Y XL RA： 285/35 R18 97 Y[2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 18 H2 ET 48
FA： 255/40 R18 99 Y XL MOExtended[1] RA： 285/35 R18 97 Y MOExtended[1, 2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 18 H2 ET 48

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA： 255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48

1 MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ特性を持つタイヤ）は、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムとの組み合わせでのみ。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。

オールシーズンタイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
FA： 255/40 R18 99 H XL M+S RA： 285/35 R18 97 H XL M+S[2, 3]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 BA：9.5 J x 18 H2 ET 48

ウィンタータイヤ
R 17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 245/45 R17 99 H XL M+S	BA：8.5 J x 17 H2 ET 34.5
BA： 245/45 R17 99 V XL M+S MOExtended[1]	BA：8.5 J x 17 H2 ET 34.5

R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/40 R18 99 V XL M+S	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5
BA：255/40 R18 99 V M+S MOExtended[1]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5

CLS 550 BlueEFFICIENCY

サマータイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/40 R18 99 Y XL[2]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5
BA： 255/40 R18 99 Y XL MOExtended[1 2]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5

2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。
1 MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ特性を持つタイヤ）は、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムとの組み合わせでのみ。

タイヤ	軽量アルミホイール
FA： 255/40 R18 99 Y XL RA： 285/35 R18 97 Y[2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 18 H2 ET 48
FA： 255/40 R18 99 Y XL MOExtended[1] RA： 285/35 R18 97 Y MOExtended[1, 2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 18 H2 ET 48

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 34.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48

オールシーズンタイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
FA： 255/40 R18 99 H XL M+S RA： 285/35 R18 97 H XL M+S[2, 3]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5 BA：9.5 J x 18 H2 ET 48

ウィンタータイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/40 R18 99 V XL M+S	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5
BA：255/40 R18 99 V M+S MOExtended[1]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 34.5

2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
1 MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ特性を持つタイヤ）は、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムとの組み合わせでのみ。
3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。

CLS 63 AMG

サマータイヤ
R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA： 255/35 ZR19 (96 Y) XL[3] RA：285/30 ZR19 (98 Y) XL[2, 3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 37 RA： 10.0 J x 19 H2 ET 47

ウィンタータイヤ
R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 V XL M+S [3] RA：255/35 R19 96 V XL M+S [3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 37 RA：9.5 J x 19 H2 ET 52
FA：255/35 R19 96 V XL M+S [3] BA：285/30 R19 98 V XL M+S [2, 3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 37 RA： 10.0 J x 19 H2 ET 47

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを使用するときは、最高速度 80 km/h を超えないようにしてください。

スノーチェーンは応急用スペアタイヤには装着しないでください。

3 "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

全体的な注意事項

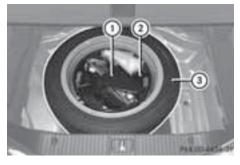
特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要であれば空気圧を調整してください(▷ 252 ページ)。適切な値は車輪または "サービスデータ" (▷ 269 ページ) にあります。

ただし、応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。 応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

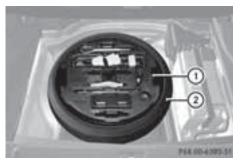
摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。 これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行するときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。 パンクしたタイヤを新品と交換してから、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用ミニスペアタイヤ / コラプシブル応急用スペアタイヤの取り外し

"ミニスペア" 応急用スペアタイヤの取り外し

応急用スペアタイヤはトランクフロア下の収納スペースにあります。

- ▶ トランクフロアを上方に上げます (▷ 216 ページ)。
- ▶ 収納トレイ ② を反時計回りにまわして、車載工具トレイ ① と一緒に取り外します。
- ▶ 応急用ミニスペアタイヤ ③ を取り外します 。

コラプシブル応急用スペアタイヤの取り外し（AMG 車両）

応急用スペアタイヤはトランクフロア下の収納スペースにあります。

- ▶ トランクフロアを上方に上げます (▷ 216 ページ)。
- ▶ 工具ホルダーの切り込み ① に手を伸ばし、持ち上げます。
- ▶ コラプシブル応急用スペアタイヤ ② を取り外します。

タイヤの交換と取り付けに関するさらなる情報は、(▷ 256 ページ) をご覧ください。

使用したコラプシブル応急用スペアタイヤを収納する

❗ コラプシブル応急用スペアタイヤは、必ず乾いてから収納してください。 車内が湿気を帯びる原因になります。

使用したコラプシブル応急用スペアタイヤを収納するためには、以下の手順を行

ないます。 さもなければ、スペアタイヤスペースに装着されません。 メルセデス・ベンツではこの作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

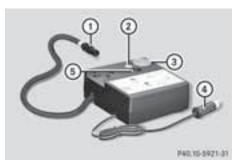
- バルブキャップをバルブから外します。
- バルブキャップの裏側を使用してバルブインサートをバルブから外し、空気を抜きます。

ℹ タイヤを完全にしぼませるには数分かかります。

- 空気が抜けたら、バルブインサートをバルブにねじ込みます。
- バルブキャップを元通りに取り付けます。
- 車載工具から保護フィルムを取り出し、コラプシブル応急用スペアタイヤにかぶせます。
- コラプシブル応急用スペアタイヤを、トランクフロアボード下の専用スペースに収納します。

コラプシブル応急用スペアタイヤの空気注入

! 車両をジャッキダウンする前に、電動エアポンプでコラプシブル応急用スペアタイヤに空気を入れないと、ホイールリムを損傷するおそれがあります。

! 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。
電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

- コラプシブル応急用スペアタイヤを記載されているように取り付けます。(▷ 255 ページ)
  充填する前にコラプシブル応急用スペアタイヤを取り付けてください。
- 電源プラグ ④ とエアホースをハウジングから取り出します。
- コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。
- エアホースのユニオンナット ① を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。
- 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ が **0** の位置になっていることを確認します。
- コネクター ④ を車内のライターソケット(▷ 217 ページ) または 12 V 電源ソケット(▷ 217 ページ) に差し込みます。
- エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします。 (▷ 127 ページ)
- 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **I** の位置にします。
  電動エアポンプが作動し始めます。 応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。 タイヤ空気圧は、空気圧ゲージ ③ に表示されます。
- 指定空気圧になるまで、応急用スペアタイヤに空気を入れます。
  指定空気圧は、応急用スペアタイヤの黄色のラベルに記載されています。

- 指定空気圧に達したら、電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **O** の位置にします。
  電動エアポンプが停止します。
- エンジンスイッチを **0** の位置にします。
- 指定空気圧を超えたときは、空気圧調整スイッチ ② を押して、適正な空気圧になるまで空気を抜きます。
- エアホースのユニオンナット ① を応急スペアタイヤのバルブから外します。
- コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを元通りに取り付けます。
- 電源プラグ ④ とエアホースをハウジングの下部に収納します。
- 電動エアポンプを車内に収納します。

サービスデータ

全車両（AMG 車以外）

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
T 155/60 R18 107 M タイヤ空気圧：420 kPa（4.2 bar / 61 psi）	4.5B x 18 H2 ET 36

AMG 車

コラプシブル応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
175/50 - 19 97 P タイヤ空気圧：350 kPa（3.5 bar / 51 psi）	6.5 B x 19 H2 ET 14

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 30 ページ)

メルセデス・ベンツ純正部品

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

車両の電子制御部品

電子制御部品の不正改造

⚠ 警告

電子制御部品およびその関連部品に関わる整備作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。

! コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。 車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機と携帯電話の改造（RF 送信機）

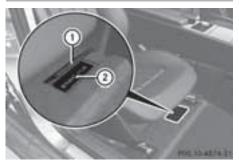
これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ビークルプレート

ビークルプレートの車台番号

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ビークルプレート
- VIN
- エンジン番号

VIN

▶ 右側前席をいっぱいまで後方に動かします。

▶ フロアカバー ① をめくりあげます。
車台番号が確認できます ②。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料および油脂の取り扱い、保管、廃棄については、負傷するおそれがあるので、法令を遵守して取り扱ってください。

燃料および油脂は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料および油脂が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、直ぐに水道水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

環境
燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB-Freigabe（MB 純正）（MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval（MB 純正）（MB Approval 229.51 など）

これ以外のマークや推奨は、MB シート番号（MB 229.5 など）に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。 これらは、メルセデス・ベンツが承認する製品とは限りません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

⚠ 警告
燃料は可燃性の強い物質です。燃料を取り扱う時は、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。
燃料を給油する前に、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告
皮膚や衣服に燃料が付着しないように注意してください。
燃料が皮膚に付着したり、気化した燃料を吸い込んだりすると、健康を害するおそれがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ガソリン
- 燃料のグレード
- 燃料消費情報

燃料タンク容量

車両の装備に応じて燃料タンクの総容量は、変わることがあります。

車種	総容量：
全車種（CLS 63 AMG を除く）	約 80.0 L
CLS 63 AMG	約 66.0 L または 約 80.0 L

車種	予備タンク容量
全車種（CLS 63 AMG を除く）	約 9.0 L
CLS 63 AMG	約 14.0 L

エンジンオイル

容量

以下の容量は、オイルフィルター分を含むオイル交換時の参考数値です。

車種	交換時の容量
CLS 350 BlueEFFICIENCY	約 6.5 L
CLS 550 BlueEFFICIENCY	約 8.0 L
CLS 63 AMG	外部オイルクーラーあり：約 8.5 L

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- エンジンオイルに関する注意事項
- 添加剤
- 粘度

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は、使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。 ブレーキ液が劣化すると、沸点が低下します。

ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

MB 認証 331.0 に従って、メルセデス・ベンツによって承認されたブレーキ液のみ使用してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換して下さい。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

冷却水は水と不凍液 / 防錆剤の混合液です。 冷却水は、以下の効果を発揮します。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

不凍液／防錆剤を適正な濃度で混合すると、作動時の冷却水の沸点は約 130 ℃になります。

エンジン冷却システム内の不凍液 / 防錆剤の濃度は、

- 約 50 %以上にしてください。 約 -37 ℃ までエンジン冷却システムが凍結するのを防ぎます。
- 約 55 %（約 -45 ℃ での凍結防止）以上にすると、冷却能力が低下します。

冷却水が不足している場合は、水道水と不凍液 / 防錆剤を同量混合した冷却水を補充してください。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

ℹ 車両の納車時には、指定の不凍液 / 防錆剤を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

フロントウインドウ / ヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ウォッシャー液または不凍液は可燃性です。発火して燃えるおそれがありますので、熱くなったエンジン部品の上に、ウォッシャー液または不凍液をこぼさないようにしてください。重度の火傷を負うおそれがあります。

! 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、 噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いとき

▶ 夏用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

夏用のウォッシャー液と水を 1 : 100 の混合比に混ぜます。

気温が氷点下のとき

▶ 冬用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補給します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

- 温度が約 -10 ℃まで下がったとき： 冬用のウォッシャー液と水を 1 : 2 の割合で混合します。
- 温度が約 -20 ℃まで下がったとき： 冬用のウォッシャー液と水を 1 : 1 の割合で混合します。
- 温度が約 -29 ℃まで下がったとき： 冬用のウォッシャー液と水を 2 : 1 の割合で混合します。

ℹ 1 年を通して、夏用と冬用などのウォッシャー濃縮液を水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載条件
  - サスペンションの状態
  - オプション装備品

寸法および重量

車種	①開いたときの高さ（外側）
全車種	約 1772 mm ～ 1788 mm

ルーフとトランクの制限重量

車種	ルーフの制限重量
全車種	約 100 kg

車種	トランクの制限重量
全車種	約 100 kg

バッテリー

全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	80 Ah

24 GHz レーダーセンサーシステム（国別概要）

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複写、翻訳または複製することはできません。

編集終了 08.11.2011